

基本計画書

基本計画											
事項	記入欄							備考			
計画の区分	大学の設置										
フリガナ設置者	カワサキシ 川崎市										
フリガナ大学の名称	カワサキシリツカンゴダイガク 川崎市立看護大学 (Kawasaki City College of Nursing)										
大学本部の位置	川崎市幸区小倉四丁目30番1号										
大学の目的	医療の高度化・多様化への的確な対応や地域包括ケアシステムの担い手としての看護師を養成していくことを目的とする。										
新設学部等の目的	市が設置する公立大学であることから、時代や社会の要請に的確に応え、地域に開かれた大学として、地域と共に学び、地域によって生まれ、確かな知識と豊かな人間性を兼ね備えた看護人材を養成する。										
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地			
	看護学部 [Faculty of Nursing]	4	100	-	400	学士 (看護学)	令和4年4月 第1次	川崎市幸区小倉四丁目 30番1号			
	看護学科 [Department of Nursing]					【Bachelor of Nursing】					
	計	4	100	-	400						
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	川崎市立看護短期大学 看護学科(廃止) (△80) ※令和4年4月学生募集停止										
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数					
	看護学部看護学科	講義	演習	実験・実習	計	132単位					
		68科目	28科目	23科目	119科目						
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等		
				教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	
	新設	看護学部看護学科			12 (12)	6 (6)	12 (11)	4 (4)	34 (33)	14 (9)	42 (23)
		計			12 (12)	6 (6)	12 (11)	4 (4)	34 (33)	14 (9)	42 (23)
	既設	該当なし			- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
					- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
計			- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)		
合計			12 (12)	6 (6)	12 (11)	4 (4)	34 (33)	14 (9)	42 (23)		
教員以外の職員の概要	職種			専任		兼任		計			
	事務職員			14 (14)		8 (8)		22 (22)			
	技術職員			0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	図書館専門職員			1 (1)		4 (4)		5 (5)			
	その他の職員			0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	計			15 (15)		12 (12)		27 (27)			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	7,037.42㎡	— ㎡	— ㎡	7,037.42㎡					
	運 動 場 用 地	5,484.88㎡	— ㎡	— ㎡	5,474.88㎡					
	小 計	12,522.30㎡	— ㎡	— ㎡	12,522.30㎡					
	そ の 他	0㎡	— ㎡	— ㎡	0㎡					
合 計	12,522.30㎡	— ㎡	— ㎡	12,522.30㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		8,426.17㎡ (8,426.17㎡)	— ㎡ (— ㎡)	— ㎡ (— ㎡)	8,426.17㎡ (8,426.17㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 情報処理学習室が 語学学習施設を兼ねる				
	7室	6室	7室	1室 (補助職員一人)	0室 (補助職員一人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数						
		看護学部看護学科		21 室						
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	(注) 電子ジャーナルは、大学全体で1パッケージで、44タイトルの雑誌を網羅している。		
	看護学部看護学科	47,000 [1,951] (40,000 [1,660])	253 [59] (253 [59])	1 [0] (1 [0])	772 (772)	888 (888)	7 (7)			
	計	47,000 [1,951] (40,000 [1,660])	253 [59] (253 [59])	(注)1 [0] (1 [0])	772 (772)	888 (888)	7 (7)			
図書館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数						
		432.96㎡	80席	50,000冊						
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体			
		673.51㎡	該 当 な し							
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。
		教員1人当り研究費等		452千円	453千円	453千円	453千円	—千円	—千円	
		共同研究費等		1,900千円	1,900千円	1,900千円	1,900千円	—千円	—千円	
		図書購入費	12,724千円	12,724千円	12,724千円	12,724千円	12,724千円	—千円	—千円	
	設備購入費	148,265千円	20,000千円	20,000千円	20,000千円	20,000千円	—千円	—千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	(市内)677千円 (市外)818千円	536千円	536千円	536千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		市費								
既設大学の状況	大 学 の 名 称	川崎市立看護短期大学								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	※令和4年度より学生募集停止(看護学科)
	看護学科	3年	80人	—人	240人	短期大学士(看護学)	1.01倍	平成7年度	川崎市幸区小倉四丁目30番1号	
附属施設の概要		該当なし								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積り及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要																
(看護学部看護学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
人間理解の基礎	科学的 基盤 思考	クリティカルシンキング	1前	2			○			1					兼1	
		医療経営学	1前・2前	2			○									
		情報処理Ⅰ(基礎)	1前	1				○			1					
		情報処理Ⅱ(発展)	1後	1				○			1					
	小計(4科目)	—	3	3	0		—		1	1	0	0	0	兼1		
	環境と 社会	総合講義	1前	1			○			3					オムニバス・ 共同(一部)	
		川崎市の文化と科学	1前	1			○			2					オムニバス	
		サービスマナー論Ⅰ(基本)	1後	2			○			1	1				オムニバス・ 共同(一部)	
		サービスマナー論Ⅱ(実践)	2後	2			○			2	2				共同	
		教育学	1前・2前	2			○								兼1	
		比較文化論	1後	2			○								兼1	
		日本国憲法と法	1前	2			○								兼1	
	小計(7科目)	—	4	8	0		—		4	0	2	0	0	兼4		
	人間の 理解 の 基礎	生涯発達論	1前	2			○								兼1	
		臨床心理学	1後	2			○								兼1	
		生活と人間工学	1前	2			○								兼1	
		健康科学Ⅰ(理論)	1前	1			○								兼2	
		健康科学Ⅱ(実践)	1後・2後	1	1			○							兼1	
		音楽	1後	2			○								兼1	
		キャリア論	3前	2			○								兼1	
小計(7科目)	—	9	3	0		—		0	0	0	0	0	兼7			
語学	英語Ⅰ(講読基礎)	1前	1				○							兼1		
	英語Ⅱ(会話基礎)	1後	1				○							兼1		
	英語Ⅲ(講読応用)	2前	1	1			○							兼1		
	英語Ⅳ(会話応用)	2後	1	1			○							兼1		
	中国語Ⅰ(基礎)	1前	1				○							兼1		
	中国語Ⅱ(発展)	1後	1				○							兼1		
	医療英語	3前	1				○							兼1		
小計(7科目)	—	2	5	0		—		0	0	0	0	0	兼3			
専門基礎	人体の 構造と 機能	人体構造機能学Ⅰ(解剖と生理:筋骨格, 消化器, 泌尿器, 生殖器)	1前	2			○				1			兼1	共同(一部)	
		人体構造機能学Ⅱ(解剖と生理:循環器, 呼吸器, 神経, 感覚器)	1前	2			○				1			兼1	オムニバス・ 共同(一部)	
		人体構造機能学Ⅲ(解剖と生理:生命活動と代謝)	1後	2			○				1			兼1	オムニバス	
		人体構造機能学Ⅳ(演習)	1後	1				○			1			兼1	共同(一部)	
	小計(4科目)	—	7	0	0		—		0	0	1	0	0	兼2		
	疾病の 成り立ち と回復の 促進	病態生理学Ⅰ(基礎・呼吸・循環器)	1後	2			○			1					兼2	オムニバス
		病態生理学Ⅱ(消化器・内分泌・免疫)	2前	2			○								兼5	オムニバス
		病態生理学Ⅲ(筋骨格・神経・精神)	2前	2			○			1					兼2	オムニバス
		病態生理学Ⅳ(感覚器・血液・泌尿器)	2後	2			○								兼6	オムニバス
		病態生理学Ⅴ(生殖器系, 小児科)	2後	2			○								兼2	オムニバス
		臨床薬理学	2前	2			○								兼1	
		臨床推論	4後	1			○			3					兼1	オムニバス・ 共同(一部)
		感染と防御	1後	2			○								兼1	
		代謝と栄養	1前	2			○								兼1	
		臨床検査学	2前	1			○								兼1	
	小計(10科目)	—	18	0	0		—		4	0	0	0	0	兼21		
	健康 支援と 社会 保障 制度	保健医療福祉行政論Ⅰ(基礎)	2前	2			○			2		1	1		兼1	共同(一部)
		保健医療福祉行政論Ⅱ(発展)	4後	2	2		○			1					兼1	
		公衆衛生学	1後	2			○			1					兼1	
		在宅医療の実際	2後	1	1		○			1	1				兼1	オムニバス・ 共同(一部)
救急医療の実際		2後	1	1		○			1	1				兼1	オムニバス・ 共同(一部)	
小計(5科目)	—	4	4	0		—		4	1	2	1	0	兼1			
健康 現象 の 統計	疫学・保健統計Ⅰ(基礎)	2後	2			○								兼1		
	疫学・保健統計Ⅱ(発展)	4後	2			○			2		1	1		兼1	共同	
	小計(2科目)	—	2	2	0		—		2	0	1	1	0	兼1		

教育課程等の概要															
(看護学部看護学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎看護学技術	看護学原論	1前	2			○			3	1				オムニバス・共同(一部)	
	基礎看護学技術Ⅰ(共通基本技術)	1前	1				○		1	1	2	1		オムニバス・共同(一部)	
	基礎看護学技術Ⅱ(生活支援技術)	1後	2				○		1	1	1	1		オムニバス・共同(一部)	
	基礎看護学技術Ⅲ(診療支援技術)	1後	1				○		1	1	1	1		オムニバス・共同(一部)	
	基礎看護学技術Ⅳ(フィジカルアセスメント)	2前	2				○		1	1	1	1		オムニバス・共同(一部)	
	基礎看護学技術Ⅴ(看護過程)	2前	1				○		1	1	1	1		オムニバス・共同(一部)	
	看護コミュニケーション論Ⅰ(基本)	1前	1				○		1		1			オムニバス・共同(一部)	
	看護コミュニケーション論Ⅱ(発展)	4前		1			○		1		3			共同	
	看護倫理学Ⅰ(基本)	1後	1				○		1	1				兼1	
	看護倫理学Ⅱ(発展)	4後	1				○		8					兼1	
	小計(10科目)	—	12	1	0		—		10	2	5	1	0	兼1	
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護学概論	1後	2			○			1	1				オムニバス
		地域・在宅看護学方法論	2前	2			○			1	1	2			オムニバス
地域・在宅看護学演習		2後	1				○		1	1	2			共同(一部)	
地域包括ケア実践Ⅱ(継続看護)		3前	1				○		1	1	2			オムニバス	
小計(4科目)		—	6	0	0		—		1	1	2	0	0	兼0	
成人看護学	成人看護学概論	2前	1			○			1	2				オムニバス	
	成人看護学方法論Ⅰ(急性期)	2後	2			○			1	2				オムニバス	
	成人看護学方法論Ⅱ(慢性期・終末期)	2後	2			○			1	2	1			オムニバス	
	成人看護学演習	3前	1				○		1	2	1			オムニバス・共同(一部)	
	小計(4科目)	—	6	0	0		—		1	2	1	0	0	兼0	
老年看護学	老年看護学概論	2前	1			○			2					オムニバス	
	老年看護学方法論	2後	2			○			2		1			オムニバス	
	老年看護学演習Ⅰ(症状・治療への支援)	3前	1				○		2		1	1		オムニバス・共同(一部)	
	老年看護学演習Ⅱ(認知症ケア)	3前	1				○		2		1	1		共同(一部)	
	小計(4科目)	—	5	0	0		—		2	0	1	1	0	兼0	
小児看護学	小児看護学概論	2前	1			○			1					オムニバス	
	小児看護学方法論	3前	2			○			1		2			共同(一部)	
	小児看護学演習	3前	1				○		1		2	1		共同(一部)	
	小計(3科目)	—	4	0	0		—		1	0	2	1	0	兼0	
母性看護学	母性看護学概論	2後	1			○			1					オムニバス・共同(一部)	
	母性看護学方法論	3前	2			○			1		2			オムニバス・共同(一部)	
	母性看護学演習	3前	1				○		1		2			オムニバス・共同(一部)	
	小計(3科目)	—	4	0	0		—		1	0	2	0	0	兼0	
精神看護学	精神看護学概論	2後	1			○			1	1				オムニバス	
	精神看護学方法論	2後	2			○			1	1	1			オムニバス	
	精神看護学演習	3前	1				○		1	1	1			オムニバス・共同(一部)	
	小計(3科目)	—	4	0	0		—		1	1	1	0	0	兼0	
看護の統合と実践	保健指導・健康教育論	2後	1			○			1		2			オムニバス・共同(一部)	
	地域包括ケア実践Ⅰ(多職種協働)	2後	1				○		3	1				オムニバス・共同(一部)	
	統合地域包括ケア演習	4後	1				○		2	3	4	1		共同・集中	
	国際看護論	4前		1		○			1		2			オムニバス・集中	
	看護情報活用論	4前		1		○				2				共同(一部)	
	災害看護学Ⅰ(基礎)	2後	1			○			3					兼1	
	災害看護学Ⅱ(発展)	4前		1		○			3					オムニバス・共同(一部)・集中	
	看護マネジメント論	3前	1			○			1	1				オムニバス	
	パリアティブケア	4前		1		○			2	1				オムニバス・共同(一部)	
	家族看護学	2後		1		○			3					オムニバス	
	看護研究法概説	3前	1				○		1	1				オムニバス・共同(一部)	
	看護研究Ⅰ(基礎)	4前	1				○		9	5	11			共同(一部)	
	看護研究Ⅱ(発展)	4後	1				○		9	5	11			共同	
小計(13科目)	—	8	5	0		—		12	5	11	1	0	兼1		

教育課程等の概要															
(看護学部看護学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2後	2			○			2						オムニバス
	公衆衛生看護学対象論Ⅰ（ライフステージ別）	2後	2			○			1		1				オムニバス・共同（一部）
	公衆衛生看護学対象論Ⅱ（学校・産業）	3前		2		○			2						オムニバス
	公衆衛生看護学方法論	3前		2		○			1		1				オムニバス
	コミュニティ・アセスメント論	3前		2		○			1		1	1			オムニバス・共同（一部）
	公衆衛生看護学活動論	4後		2		○			1		1	1			共同
	小計（6科目）		—	4	8	0				2	0	1	1	0	
専門 臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ（基礎）	1後	1					○	1	1	2	1	7		共同・集中
	基礎看護学実習Ⅱ（看護過程）	2前	2					○	1	1	3	1	10		共同・集中
	在宅看護学実習	4前	2					○	1	1	2		3		共同・集中
	地域包括ケア実習	4前	2					○	1	1	2		5		共同・集中
	成人・老年看護学実習Ⅰ（慢性期）	3後	2					○	1	2	2	1	4		共同・集中
	成人・老年看護学実習Ⅱ（急性期）	3後	2					○	1	2	1	1	7		共同・集中
	成人・老年看護学実習Ⅲ（セルフケア支援）	3後	1					○	1	2	2	1	4		共同・集中
	成人・老年看護学実習Ⅳ（緩和ケア）	4前		2				○	1	2	1				共同・集中
	老年看護学実習Ⅰ（リハビリテーション看護）	3後	1					○	2		1	1	2		共同・集中
	老年看護学実習Ⅱ（認知症ケア）	4前		1				○	2		1	1			共同・集中
	小児看護学実習Ⅰ（病院）	3後	1					○	1		2	1			共同・集中
	小児看護学実習Ⅱ（療育・特別支援学校）	3後	1					○	1		2	1			共同・集中
	母性看護学実習Ⅰ（分娩期・病院）	3後	1					○	1		2		1		共同・集中
	母性看護学実習Ⅱ（妊娠期・子育て期）	3後	1					○	1		2				共同・集中
	精神看護学実習Ⅰ（病院）	3後	1					○	1	1	1				共同・集中
	精神看護学実習Ⅱ（デイケア）	3後	1					○	1	1	1				共同・集中
	看護マネジメント実習	4前	1					○	1	1		1			共同・集中
	発達と暮らしへの支援実習（幼児と高齢者の生活）	2前	1					○	1		4	2			共同・集中
	多職種連携実習	4前		1				○	2	2	3				共同・集中
	公衆衛生看護学実習Ⅰ（基礎）	3後		2				○	1		1	1	2		共同・集中
	公衆衛生看護学実習Ⅱ（発展・マネジメント）	4前		2				○	1		1	1	2		共同・集中
	公衆衛生看護学実習Ⅲ（学校・産業）	4前		1				○	2		1	1			共同・集中
	公衆衛生看護学実習Ⅳ（社会的養護）	4前		1				○	1		1	1			共同・集中
小計（23科目）		—	21	10	0				10	5	12	4	14		兼0
合計（119科目）			—	123	49	0			12	6	12	4	14		兼42
学位又は称号		学士（看護学）			学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学）							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
人間理解の基礎では必修科目18単位および選択科目3単位以上、専門基礎では必修科目31単位および選択科目2単位以上、専門では必修科目74単位および選択科目4単位以上（『臨地実習』のうち「成人・老年看護学実習Ⅳ（緩和ケア）」、「老年看護学実習Ⅱ（認知症ケア）」および「多職種連携実習」から2科目を選択必修とする。）を履修し、合計132単位以上を修得していること。 保健師国家試験受験資格を希望する者は、卒業要件（132単位）の他に、専門基礎から「疫学・保健統計Ⅱ」（2単位）、専門から『公衆衛生看護学』の選択科目（8単位）と『臨地実習』の選択科目のうち「公衆衛生看護学実習Ⅰ～Ⅳ」（6単位）の計16単位を履修し、合計148単位以上を修得していること。 養護教諭二種免許の申請を希望する者は、保健師国家試験の受験資格に必要な科目に加え、人間理解の基礎の選択科目「教育学」（2単位）、「日本国憲法と法」（2単位）の合計4単位を修得していること。 （履修科目の登録の上限：52単位（年間））							1学年の学期区分			2学期					
							1学期の授業期間			14週					
							1時限の授業時間			100分					

（注）

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
科学的 思考の 基盤	クリティカルシンキング	本科目では、与えられた情報や人の意見について深く考え、自問自答や周囲の人との話し合いを通じて、納得できる考えや判断を見つけ出すための技術を学ぶ。クリティカルシンキングの概念や方法は医療や看護の場では多職種連携、医療事故の予防、研究において重要であり、臨床推論を行う思考プロセスの基礎となる。社会生活の仕組みや実際の医療現場での活用事例を通して場面を想定しながら学ぶ。	
	医療経営学	経営学は現代を取り巻く様々な社会現象を対象とする学問である。本講義では、経営学の中でも医療経営を中心に学ぶ。医療経営の基礎となる医療制度・政策に関する解説、マネジメントに関する諸概念の解説を行なう。さらに、医療福祉経営（訪問看護ステーションも含む）の実例を交え、演習・ディスカッションを通して学ぶ。	
	情報処理Ⅰ（基礎）	大学生活において様々な場面（レポート作成、卒業研究など）において情報機器やデバイス利用が必要不可欠である。基本的な表計算ソフト（Excel）を利用して統計方法を学ぶ。また情報リテラシーの基礎的な概念（情報を活用する上での倫理、安全性）、情報の活用法、情報処理の保護や権利など情報モラルについて学ぶ。	
	情報処理Ⅱ（発展）	医療現場では、電子カルテによる情報管理や病院間での情報共有、ネット回線を使用する遠隔医療など、医療分野においてICT（情報通信技術）は不可欠な存在となっている。看護職に必要なICTを活用するための基本を理解し、学習や業務におけるデータ管理及び活用のための道具として、複数のデバイス（スマートフォン・パソコン・タブレットなど）を用いて学ぶ。	
	総合講義	<p>川崎市で大学生活を過ごす新入生への導入教育である。大学生としての社会人基礎力や、大学における学修・生活の送り方などの基礎知識を確認し、自ら学ぶ姿勢を獲得する。また川崎市の医療情報に関する知識を学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式/全7回）</p> <p>① 荒木田 美香子・⑤ 山崎 由美子/1回）（共同）</p> <p>・オリエンテーション、学生同士の相互理解</p> <p>① 荒木田 美香子/4回）</p> <p>・社会人基礎力とは</p> <p>・川崎市が期待する保健医療専門職（川崎市市長）</p> <p>・50年後の川崎市民の健康をどう作るか（川崎市健康福祉局長）</p> <p>・大学生としての学び方：ポートフォリオ</p> <p>① 坂元 昇/1回）</p> <p>・川崎市立大学で学ぶということ</p> <p>⑤ 山崎 由美子/1回）</p> <p>・レポート作成の技術</p>	オムニバス・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
環境と社会 人間理解の基礎	川崎市の文化と科学	<p>川崎市の歴史・文化・産業を学ぶことを通して川崎市と人々の生活を理解する。自分自身が地域の一員として、人々の生活・社会・健康との関係を理解できるように、市職員からの講義など川崎市の現状と課題を具体的に学び、川崎市の未来について医療・看護の視点から考察できる力を獲得する。</p> <p>(オムニバス方式/全7回)</p> <p>(1 坂元 昇/1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション：川崎市の将来人口推計 <p>(I 荒木田 美香子/6回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川崎市の歴史（川崎市市民文化局市民文化振興室） ・京浜工業地帯と喘息、結核との闘い（川崎市健康福祉局） ・都市を作る（武蔵小杉）（川崎市まちづくり局都市計画課） ・博物館、スポーツの町、川崎（サッカー・バスケットボール）（川崎市教育委員会、川崎市市民文化局市民スポーツ室） ・川崎市の環境を守る（川崎市環境局地球環境推進室） ・元気高齢者を創る仕組み（川崎市健康福祉局長寿社会部、地域包括ケア推進室） 	オムニバス
	サービスラーニング論 I（基本）	<p>サービスラーニングとは学生が得た専門的知識を地域社会において社会貢献活動などを通じて学修する方法である。ボランティアとの比較も行いながら、理念、方法、課題、実践例を学び、その後、実際に地域での貢献活動に参加し、体験を通して学びの振り返りを行う。その中で、市民性や認知面、情意面での学びを深め、看護の専門性を地域に還元するための基礎を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(8 淵田 英津子/7回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学におけるサービスラーニングのねらい、チームワークとは ・学習と活動の関係 ・エンパワメントのための関係作り ・リーダーシップとサービスラーニング ・失敗から学ぶ ・すそ野を広げるための工夫 ・取り組みの評価 <p>(36 高橋 恵子/2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービスラーニングとは（考え方、学生の学び） ・コミュニティパートナーの開拓 <p>(21 笠原（中山） 順子/1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化的なつながりを作る <p>(8 淵田 英津子・21 笠原（中山） 順子/4回）（共同）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り組みの計画づくり1（素案作り） ・取り組みの計画づくり2（計画の立案） ・取り組み計画の発表会1 ・取り組み計画の発表会2 	オムニバス・共同（一部）
	サービスラーニング論 II（実践）	<p>1年生ではサービスラーニングの基本を学修し、取り組み計画を立案した。本科目では、サービスラーニング論Iで立案した取り組み計画の中から、実施可能性があり、実施意義のある計画を実現に移していくというプロセスを実践的に学習する科目である。さらに、取り組みを実施し、評価を行うことで、地域住民との協働からサービスラーニングの進め方を学ぶ。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間の理解	教育学	教育に関する理念・思考、教育方法、教育実践の基礎的スキルを取得し、学生自身の生涯学習につなげられるようにする。また、人の発達や学習を理解したうえで、学習支援、保健指導等を行うという看護職の教育的役割の基本となる事項を学ぶ。	
	比較文化論	グローバル社会に対応するため、国や民族ごとの異なる文化を比較しながら相互理解のための方法を学ぶ。比較研究する文化の内容としては、歴史、言葉、芸術、ライフスタイルなどがあるが、他国や多民族の文化を比較研究するために、自国の文化についても学ぶ。	
	日本国憲法と法	日本国憲法による人権保障について基礎的知識を修得する。人権についての考え方を身につけて社会の問題を人権の観点から考える。法的な思考法を理解する目的で法学の基礎的な概念について学ぶ。(養護教諭2種)	
	生涯発達論	人間の心身の成長について、ライフサイクルと漸成性という観点から人間の各段階（胎生期・乳幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期・老年期）における発達上の特性・課題について学ぶことにより、発達という観点から人間理解を深める。	
	臨床心理学	心理学の歴史人間の心の働きと仕組みを理解し、心理学の基礎的な概念について学ぶ。またカウンセリングと心理療法、社会とのかかわり（対人関係、集団心理）や看護学生が大学生活で直面する日常的な出来事、実習で体験する様々な課題を通して、看護と心理学の接点に気づくことが出来るよう心理学の基礎を学ぶ。	
	生活と人間工学	人間工学の視点から、安全・安楽に効率のよい作業を行うための原理を理解する。また看護職に必要とされる日常生活上の動作・諸機能などとの関連について、看護ケアが患者・看護師の身体への影響を人間工学の側面からも学ぶ。	
	健康科学Ⅰ（理論）	運動は心身の健康の維持・増進にとって重要な役割を持っている。特に看護師は業務の特性から心身のストレスの掛かる職種であり、ストレス対応力を身に付けることは非常に重要である。その手段として運動は大きな役割を果たす。日常の運動がメンタルヘルスや生活の質の向上、疾病予防などに役立つことを理解するとともに、スポーツ文化について学ぶ。	
	健康科学Ⅱ（実践）	体育館等を使用して、様々な種類の運動を行う。実際に様々な運動を経験することで、運動が身体的、心理的、社会的に及ぼす影響について自ら体験し考察する。また、運動を通じて仲間と協働することや、心身の健康を維持するための生活の中に運動を取り入れる重要さを学ぶ。	
	音楽	音楽が人の身体、精神、社会的な状態に与える影響を理解する。また、音楽を通して豊かな人間性を涵養し、創造性と感性を育む。さらに音楽療法についての概要と、医療現場でどのように活用され看護と結びつくのか、実際の音楽療法の場面について体験や説明を通して学ぶ。	
	キャリア論	キャリアに関するいくつかの理論を歴史的背景と共に学ぶ。また、看護専門職としてキャリアを発達、キャリア開発につなげる生涯学習を目指した社会資源の活用を学ぶと共に、自身の将来設計の検討を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
語学	英語Ⅰ（講読基礎）	英語での表現力（話す・書く）・英語の聴解力・読解力の4技能を通して、英文理解のために必要な購読の基礎について学ぶ。	
	英語Ⅱ（会話基礎）	聴き取り・発音・発話練習を通して、英文理解のために必要な会話の基礎について学ぶ。	
	英語Ⅲ（講読応用）	英語Ⅰに引き続き英文理解力をつけるために、看護について記された文章を正確に理解する読解力、読解した内容について、英語で自分の意見を述べる表現（話す・書く）について学ぶ。	
	英語Ⅳ（会話応用）	英語力を修得するために、社会生活や医療のトピックについて記された文章を正確に読み取る読解力、読解した内容について英語で自分の意見を述べる表現力（話す・書く）、英語で述べられた相手の意見を理解する聴解力を修得する。	
	中国語Ⅰ（基礎）	医療現場では様々な背景をもつ対象への対応が必要である。特に川崎市は中国国籍をもつ市民が多いため、中国語の簡単な会話や文章を通して中国の生活や文化、医療制度を学び、異文化を身近に感じながら学ぶ。	
	中国語Ⅱ（発展）	中国語Ⅰを基礎とし、医療現場での中国語会話を会話形式で学ぶ。看護の場での情報収集（問診、症状の聴取）など、ロールプレイなどを通して実際の場面をイメージしながら学ぶ。	
	医療英語	医療現場で使用される基本的な英語を学ぶ。また、様々な医療・看護場面における英会話（診療、治療、看護ケア）をロールプレイ等を通して学ぶ。	
	人体構造機能学Ⅰ （解剖と生理：筋骨格、消化器、泌尿器、生殖器）	<p>対象者の状態を理解するのに必要な人体の構造（形態）と主な働き（機能）についての基本事項を学ぶ。特に、筋骨格、神経、呼吸器、循環器、消化器、泌尿器、生殖器系の解剖について学ぶ。</p> <p>（31 松田 真由美・50 水嶋 崇一郎/1回）（共同）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の基本構造（人体の階層構造、組織の分類、体液の区分、恒常性の維持） <p>（50 水嶋 崇一郎/13回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨格系：骨の構造と全身の骨 頭蓋骨・脊柱・胸郭 ・骨格及び筋肉系：上肢・下肢、筋肉 ・神経系：中枢神経、末梢神経 ・循環器系：心臓、動脈、静脈 ・循環器系：リンパ系、胎児循環 ・呼吸器系：気管、気管支、肺 ・消化器系：消化管（口腔・口腔腺・咽頭・食道） ・消化管（胃・小腸・大腸・肛門） ・消化腺（肝臓・胆嚢・膵臓） ・泌尿器系 ・内分泌系 ・感覚器系（外皮・嗅覚器・味覚器・視覚器・平衡聴覚器） ・生殖器系（外性器、内性器） 	共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人体の構造と機能	人体構造機能学Ⅱ (解剖と生理：循環器、呼吸器、神経、感覚器)	<p>対象者の状態を理解するのに必要な人体の構造（形態）と主な働き（機能）についての基本事項を学ぶ。特に、筋骨格、呼吸器、循環器、消化器系の生理・機能について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(31 松田 真由美・51 長谷 都/1回) (共同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション：看護学の土台となる解剖生理学、ホメオスタシス、細胞の働き <p>(51 長谷 都/13回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨格筋の構造、興奮収縮連関、骨格筋の収縮様式 ・神経の基本的機能 ・体液 酸塩基平衡、浸透圧調節 ・血液 血液の機能、止血機能、血液型 ・循環器系 ①体循環、肺循環 ・循環生理 ②心臓の興奮、心電図 ・循環生理 ③圧受容器反射、微小循環、リンパ循環 ・呼吸 ①換気、ガスの運搬 ・呼吸 ②呼吸調節 ・消化・吸収 ①消化管運動 ・消化・吸収 ②消化液分泌とその作用 <p>(31 松田 真由美/1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総括 	オムニバス・共同（一部）
	人体構造機能学Ⅲ (解剖と生理：生命活動と代謝)	<p>対象者の状態を理解するのに必要な人体の構造（形態）と主な働き（機能）についての基本事項を学ぶ。特に、腎泌尿器、体液の調整、内分泌、脳神経、生体防御系の生理・機能について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(51 長谷 都/13回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腎・泌尿器系 ①尿生成機構 ・腎・泌尿器系 ②尿濃縮・希釈 ・体液の調節 ・内分泌 ①内分泌系の機能、ホルモンの種類と作用、視床下部、下垂体のホルモン ・内分泌 ②甲状腺、副腎、糖代謝、骨代謝の内分泌調整 ・内分泌 ③生殖器系 ・体性神経系・自律神経系の構造とはたらき、反射 ・脳神経の機能 ①大脳皮質・大脳基底核・大脳辺縁系 ・脳神経の機能 ②脳幹・小脳・脊髄の機能 ・生体防御機構：免疫系の気管、細胞 ・生体防御機構：免疫応答の仕組み ・感覚器系：感覚器と上向伝導路、視覚、聴覚 ・成長、発達、老化の仕組み <p>(31 松田 真由美/1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体温調節の仕組み/総括 	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	人体構造機能学Ⅳ (演習)	<p>解剖見学実習を通して、人体構造機能学Ⅰから得た人体の構造に関する知識の理解を深める。またご献体されたご本人ならびにご遺族へのご意思に深い畏敬の念をもって、倫理的な尊厳を伴った行動を身に付ける。さらに、これまでの解剖・生理の学習の中から、さらに学習を深めたい内容を洗い出し、グループでテーマを定めて、学習を深め、発表する。</p> <p>(31 松田 真由美/9回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション：解剖生理に関するアチーブメントテスト ・アチーブメントテストの結果返却と弱点の補強、知識の整理 ・テーマ学習：グループに分かれて、解剖・生理学に関してテーマを決めて学習を深める ・テーマ学習：情報の収集と統合 ・テーマ学習：発表に向けた整理 ・解剖実習のオリエンテーション ・解剖実習の振り返り ・テーマ学習の発表（解剖学関係） ・テーマ学習の発表（生理学関係） ・総括 <p>(31 松田 真由美・50 水嶋 崇一郎/5回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聖マリアンナ医科大学にて、解剖学実習の見学に必要な知識などの復習 ・聖マリアンナ医科大学の協力を得て、解剖学実習に参加する 	共同（一部）
	病態生理学Ⅰ (基礎・呼吸・循環器)	<p>主要な疾患について、疾患概念、病気のプロセス、病態生理と症候（症状と身体所見）、検査所見、治療の基礎知識、予後に関連付けて学ぶ。また、疾患を抱える対象の理解に必要な看護のアセスメントを学ぶ。（人体と細胞、ホメオスタシス、循環器系、呼吸器系）</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(1 坂元 昇/3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾病の診断の基本と方法 ・細胞の障害、炎症、腫瘍 ・ホメオスタシス、老化、廃症候群 <p>(52 佐山 宏一/5回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器系の炎症性の疾患（気管支炎、肺炎） ・気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患 ・肺循環障害（肺高血圧、肺栓塞症等） ・肺結核、気胸 ・肺の腫瘍（肺癌、中皮腫等） <p>(53 西澤 健也/6回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先天性心疾患、弁膜症 ・不整脈、心筋症 ・虚血性心疾患、心不全 ・血圧異常の病態（本態性高血圧、動脈硬化、二次性高血圧、起立性低血圧） ・血管系の疾患（大動脈瘤、大動脈解離、閉塞性動脈硬化症、挫滅症候群、下肢静脈瘤、深部静脈血栓） ・ショック（心原生ショック、出血性ショック、血流分布異常性ショック） 	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	病態生理学Ⅱ (消化器・内分泌・免疫)	<p>主要な疾患について、疾患概念、病気のプロセス、病態生理と症候（症状と身体所見）、検査所見、治療の基礎知識、予後を関連付けて学ぶ。また、疾患を抱える対象の理解に必要な看護のアセスメントを学ぶ。(消化器系、内分泌系、免疫系)</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(54 逢坂 佳宗/1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手術療法と適応、麻酔 <p>(55 栗林 徹/1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放射線による治療 <p>(56 玉井 博修/5回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上部消化管の炎症性の疾患（急性胃炎、慢性胃炎、ヘリコバクターピロリ感染症、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、逆流性食道炎） ・下部消化管の炎症性の疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病、虫垂炎、痔瘻）、イレウス、排便障害 ・胆・肝・膵の疾患（肝炎、胆管炎、膵炎、肝硬変、胆石、脂肪肝等） ・腹壁、腹膜、横隔膜の疾患（祖型ヘルニア、腹膜炎、横隔膜ヘルニア、吃逆） ・上部消化管の悪性腫瘍、下部消化管の悪性腫瘍 <p>(57 津村 和大/4回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内分泌系の疾患（間脳、下垂体）腫瘍（下垂体腫瘍、甲状腺癌） ・甲状腺疾患、副甲状腺疾患 ・代謝異常の疾患（メタボリックシンドローム、肥満症、糖尿病） ・代謝異常の疾患（脂質異常症、高尿酸血症、ビタミン欠乏症） <p>(58 坂本 光男/3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己免疫疾患 ・アレルギー疾患 ・免疫低下に関連する疾患（敗血症、HIV感染症、エイズ） 	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
疾病	病態生理学Ⅲ (筋骨格・神経・精神)	<p>主要な疾患について、疾患概念、病気のプロセス、病態生理と症候（症状と身体所見）、検査所見、治療の基礎知識、予後を関連付けて学ぶ。また、疾患を抱える対象の理解に必要な看護のアセスメントを学ぶ。（骨格系・筋系・神経系・自律神経系、精神疾患系）</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(1 坂元 昇/5回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・器質性精神障害（アルツハイマー>病、血管性認知症、レビー小体型認知症）、せん妄 ・統合失調症、気分＜感情＞障害（うつ病、双極性障害） ・神経症性障害、ストレス関連障害（パニック障害、心的外傷後ストレス障害、適応障害） ・精神作用物質使用による精神・行動の異常（アルコール依存症、覚醒剤・大麻精神病） ・小児・青年期の精神・心身医学的疾患、成人の人格・行動障害（摂食障害、不眠症、ナルコレプシー） <p>(59 西脇 正夫/4回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨折、脱臼、捻挫 ・腫瘍（骨肉腫）、炎症性疾患（骨・骨髄炎、関節炎） ・腰痛症（椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症） ・骨粗鬆症、変形性関節症 <p>(60 野崎 博之/5回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋肉系の疾患（筋ジストロフィー、重症筋無力症） ・中枢神経系の疾患（脳血管障害、頭蓋内圧亢進症、感染症（脳炎、髄膜炎） ・中枢神経系の疾患（頭部外傷、脊髄損傷てんかん、脳腫瘍、パーキンソン、筋萎縮性側索硬化症） ・末神経系の疾患（自律神経失調症、ギランバレー症候群、ベル麻痺、圧迫性神経障害） ・頭部外傷と治療 	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎	の成り立ちと回復の促進 病態生理学Ⅳ (感覚器・血液・泌尿器)	<p>主要な疾患について、疾患概念、病気のプロセス、病態生理と症候（症状と身体所見）、検査所見、治療の基礎知識、予後を関連付けて学ぶ。また、疾患を抱える対象の理解に必要な看護のアセスメントを学ぶ。（感覚器系：眼・耳・鼻・舌・皮膚・血液・造血器・泌尿器系）</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(61 定平 健/3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貧血（鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、溶血性貧血、骨髓異形成症候群、二次性貧血） ・出血性疾患（血栓性血小板減少性紫斑病、免疫性血小板減少性紫斑病、播種性血管内凝固）、白血球減少症 ・腫瘍（白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫） <p>(62 原 智/3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腎炎、慢性腎臓病、腎不全 ・炎症性疾患（腎盂腎炎、膀胱炎）、腫瘍（腎癌、尿管癌、膀胱癌） ・腎・尿路結石、排尿障害（過活動膀胱、腹圧性尿失禁、夜尿症） <p>(63 園部 秀樹/2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感覚器系の疾患（眼科系：視覚障害、飛蚊症、白内障、緑内障、ドライアイ等） ・感覚器系の疾患（眼科系：感染症、外傷、網膜剥離、網膜症、糖尿病性網膜症等） <p>(64 重富 征爾/2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・炎症性疾患（咽頭炎、桃炎） ・感覚器系の疾患（耳鼻科系：難聴、Ménière<メニエール>病、嗅覚障害など） <p>(65 鬼澤 勝弘/2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成長・老化と口腔衛生、う歯、歯周病 ・腫瘍（舌癌）他 <p>(66 西本 周平/2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皮膚障害（湿疹、アトピー性皮膚炎、帯状疱疹） ・皮膚障害（疥癬、蜂窩織炎） 	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	病態生理学V (生殖器系・小児科)	<p>主要な疾患について、疾患概念、病気のプロセス、病態生理と症候（症状と身体所見）、検査所見、治療の基礎知識、予後を関連付けて学ぶ。また、疾患を抱える対象の理解に必要な看護のアセスメントを学ぶ。（生殖器系：受精を含む、成長・老化のしくみ、胎児の血液循環及び異常、小児に多い疾患）</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(67 中田 さくら/7回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正常妊娠 ・妊娠の異常 ・妊娠合併症・母子感染症 ・正常分娩と産褥期 ・分娩の異常 ・更年期と更年期障害 ・婦人科系の腫瘍 <p>(68 土橋 隆俊/7回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児の成長、低出生体重児、医療的ケア ・小児の遺伝性疾患・染色体異常 ・小児の代謝・内分泌疾患、免疫・アレルギー・膠原病 ・小児の臓器疾患、腎・泌尿器疾患 ・小児の消化器疾患、血液・腫瘍疾患 ・小児の神経・筋・精神疾患 ・小児の感染症 	オムニバス
	臨床薬理学	<p>薬物の概念、主な薬物の特徴と作用機序（薬物動態学）を理解し、使用時の留意点（注意点、添付文書の理解）、薬物の相互作用、医薬品の管理、薬害の実態とその予防など、薬物療法を行うための基本的知識を学ぶ。また、薬物管理に求められる知識、技術、倫理について学ぶ。</p>	
	臨床推論	<p>保健・医療・福祉・介護の現場では、これまで以上に高い判断力と実践力が必要とされている。4年次の領域別実習が終了した後に、これまで学んだ知識や体験を活用し事例検討（看護過程）を通してエビデンスに基づいて判断する方法を実践的に学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全7回)</p> <p>(4 糸井 裕子/1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床推論とは、推論の方法 <p>(3 難波 貴代/1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床現場での臨床推論の活用 <p>(3 難波 貴代・4 糸井 裕子・9 田中 千代/5回) (共同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腹痛の事例 ・感覚器異常の事例 ・発疹の事例 ・頭痛の事例 ・意識障害の事例 	オムニバス・ 共同（一部）
	感染と防御	<p>感染症の診断・治療・予防あるいは感染防止を進めるにあたり、看護従事者の担う役割は極めて重要である。将来、その役割を担う準備として、微生物学・免疫学の歴史、消毒、感染、免疫、ワクチン・予防接種、化学療法、微生物学的検査、微生物の性質と感染のメカニズムなど、感染と防御の基礎的な知識について学ぶ。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
健康支援と社会保	代謝と栄養	正常な人体の仕組みについて、健康の維持に欠かせない三大栄養素（糖質・脂肪・タンパク質）の消化と吸収、これに続く細胞内での物質変化（代謝）とその調節を分子レベルで学ぶ。人体は代謝で得たエネルギーを用いて恒常性を維持し、命を繋ぐ。ビタミンは代謝に必須であり、代謝の異常は疾病を来すことについて学ぶ。	
	臨床検査学	臨床検査は、診断の確定、重症度の判断、治療効果の判定など、臨床経過の様々な段階で重要な役割を果たす。チーム医療の一翼を担う看護師が個々の臨床検査の意味を知るだけでなく、対象から得た複数の検査結果から対象の訴えや身体所見と関連づけて病態を把握する必要性や臨床検査についての基礎知識について学ぶ。また、放射線の診断、治療の意義、人体への影響など、放射線の医療利用における基礎知識について学ぶ。（画像診断を含む）。	
	保健医療福祉行政論Ⅰ（基礎）	看護職を規定する法律や関係法規、保健、医療、福祉に関連した関係法規と制度の基礎知識について学ぶ。また、看護職として地域住民の健康な生活を支えるための制度、地域資源とその活用方法について理解を深める。	
	保健医療福祉行政論Ⅱ（発展）	<p>公衆衛生看護学実習Ⅰ～Ⅳを修了したのち、実習で経験したことを土台とし、保健医療福祉制度の理念、日本の制度の変遷、保健医療福祉制度の現況と課題について学ぶ。また、保健医療福祉行政に関する計画策定や施策化のプロセスについて学ぶ。特に、保健師が支援するケースを想定し、実際の保健医療福祉行政の活用について学ぶ。</p> <p>〔Ⅰ 荒木田 美香子/1回〕 ・実習で受け持った事例や家庭訪問したケースが活用していた保健、福祉システムを洗い出す</p> <p>〔Ⅰ 荒木田 美香子・5 洲崎 好香・⑥ 遠藤 雅幸・32 原田 若奈/13回〕（共同） ・戦後から近年の公衆衛生政策の発展 ・諸外国における公衆衛生政策の変遷 ・国と地方公共団体における財政の仕組み、社会保障の給付と財源の動向と課題 ・市町村と都道府県の役割分担と体制の現状と課題 ・地域・職域連携の推進の現状と課題 ・医事薬事行政、環境保健行政 ・国際協力、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ<UHC>の推進、国際保健外交戦略 ・生活保護、国民皆保険・皆年金、公的扶助の現状と課題 ・地域包括ケアシステムにおける自治体の役割、地域ケア会議の機能 ・地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律についての理解 ・医療安全（医療事故予防、院内感染制御対策） ・医療法と地域保健医療計画、地域医療構想（ビジョン）の理解 ・保健医療福祉分野における政策と動向</p>	共同（一部）
	公衆衛生学	公衆衛生の理念と目的、健康の決定要因、ヘルスプロモーションの概念、集団における健康問題に関する予防医学、社会医学の役割と実際について学ぶ。公衆衛生の歴史を振り返りながら、疾病予防、健康の保持増進、健康管理、産業保健、学校保健、環境保健などの諸問題から環境と生活の健康を考え、衛生的な環境づくりについて、公衆衛生活動の様々な実践活動を通して理解する。また川崎市の保健・医療に関するデータを活用し、全国・神奈川県とのデータと比較することを通して、統計情報の理解と公衆衛生活動への活用について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
障 制 度	在宅医療の実際	<p>高齢者や在宅医療を必要とする人が地域包括ケアシステムの中でその人らしく生活するために必要な医療、保健、介護、社会福祉の基礎的な概念及び国の政策や制度について学ぶ。さらに、具体的な支援の方法や実際の活動について、川崎市の事例を通して学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全7回)</p> <p>(3) 難波 貴代/4回 在宅医療推進に向けた現状と課題、在宅医療推進に向けた国の取り組み、川崎市の在宅医療への取り組みと課題(川崎市健康福祉局地域包括ケア推進室)、地域見守り支援センターにおける在宅医療の取り組み(幸区役所地域みまもり支援センター)</p> <p>(3) 難波 貴代・22 田中 悠美/1回(共同) 在宅医療における多職種連携の在り方</p> <p>(22 田中 悠美/2回) 在宅医療の最前線:医師の立場から(川崎市医師会)、在宅医療の最前線:看護の立場から(川崎市看護協会)</p>	オムニバス・共同(一部)
	救急医療の実際	<p>日常的な院内の救急医療に加えて、救急隊員による病院前救護体制の質の担保(メディカルコントロール)、院外救急体制(ドクターカー、ドクターヘリ)や急性期災害医療についての実例を教授する。さらに川崎市の消防署等における救急隊の具体的な活動や市民が心得ておくべきことを指導できるようにBLSの指導方法についても体験的に学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全7回)</p> <p>(12 大城 健一/1回) ・わが国の救急医療発展の歴史と現在の救急医療体制</p> <p>(12 大城 健一・15 松田 有子/2回)(共同) ・一般市民が行える心肺蘇生法 ・DMAT(災害医療派遣チーム)の活動</p> <p>(15 松田 有子/4回) ・救急医療の最前線-救急隊員・救急救命士の活動(川崎病院ゲストスピーカー) ・救急医療の最前線-救命救急センター(川崎病院ゲストスピーカー) ・ドクター・ヘリの実例(井田病院ゲストスピーカー) ・心不全や呼吸不全など、生命危機に陥った重症患者に対する治療をICU(川崎病院ゲストスピーカー)</p>	オムニバス・共同(一部)
健 康 現 象 の 疫 学 統 計	疫学・保健統計Ⅰ(基礎)	<p>根拠に基づく看護を提供するための基礎となる疫学と保健統計について学び、基本的なテクニカルワードの意味を理解し、疫学・保健統計の基本を学ぶ。</p> <p>川崎市のデータや保健統計を活用し、疫学と保健統計が身近な生活と関係していることについて理解する。</p> <p>実際に統計ソフトや例題を考えることを通して、疫学調査・分析・活用方法について基礎的な知識や個人・集団の健康問題を量的に把握し分析する方法を通して学ぶ。</p>	
	疫学・保健統計Ⅱ(発展)	<p>公衆衛生看護学実習Ⅰ～Ⅳを修了したのち、実習で経験したことを土台とし、疫学データ及び保健統計から地域をアセスメントし、健康に関する実態、統計的視点を修得する。具体的には、川崎市の保健医療統計データの解析や、全国データと比較検討、及び特徴的な疾患について疫学的手法、統計データの活用について学び、知識を確実なものにする。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	看護学原論	<p>「看護とは」「看護学とは」とは何かという問いに始まり、看護の定義や役割・機能、看護理論などの看護実践における基盤となる概念について学ぶ。また看護の教育や専門性、医療における職業倫理や患者安全、看護職が多職種と連携する意義等についても学ぶ。自分なりに看護を言語化するとともに、今後、看護を学ぶためのヒト・環境との相互作用についても理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(① 荒木田 美香子・④ 糸井 裕子/6回) (共同) ・ガイダンス・看護とは、看護の歴史の変遷、看護活動の本質と目標、看護活動が持つ機能、看護理論概説、Evidence Based Nursing Practices</p> <p>(① 荒木田 美香子/1回) ・健康と生活</p> <p>(③ 難波 貴代/1回) ・保健医療と国際協力</p> <p>(⑦ 豊増 佳子/5回) ・看護の対象理解1：コミュニケーション、看護の対象理解2：身体的、精神的、社会的反応、看護の対象とライフサイクル、看護職の役割と可能性、キャリアデザイン</p> <p>(① 荒木田 美香子・⑦ 豊増 佳子/1回) (共同) ・看護学原論まとめ</p>	オムニバス・共同 (一部)
	基礎看護学技術 I (共通基本技術)	<p>看護の対象となる者を生活者の視点で捉えながら、必要とされるニーズに即した看護の提供について学ぶ。また、生活行動の援助技術の概念・援助の基本的な方法について学び、看護実践に必要な基本的な技術を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(② 掛田 崇寛/2回) ・安全の講義 (スタンダードブリーチングを含む)、生命維持反応及びモニタリングの講義</p> <p>(② 掛田 崇寛・⑦ 豊増 佳子・⑩ 岩屋 裕美・⑩ 松田 真由美・⑩ 青木 恵美子/4回) (共同) ・衛生的な手洗い演習、バイタルサイン測定演習、総合実技演習、基礎看護学技術 I まとめ</p> <p>(⑩ 岩屋 裕美/1回) ・療養環境調節の講義</p> <p>(⑦ 豊増 佳子・⑩ 岩屋 裕美・⑩ 松田 真由美・⑩ 青木 恵美子/2回) (共同) ・環境及び寝床内気候の調節演習、療養ベッド作成演習</p> <p>(⑦ 豊増 佳子・⑩ 青木 恵美子/2回) (共同) ・活動と休息の講義、衣生活の講義</p> <p>(⑦ 豊増 佳子・⑩ 岩屋 裕美・⑩ 青木 恵美子/3回) (共同) ・体位調節、ポジショニング及び体位変換演習、寝衣交換演習、寝衣及びリネン交換演習</p>	オムニバス・共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	基礎看護学技術Ⅱ (生活支援技術)	<p>食事、排泄、身体の清潔等の基本的な生活支援のための知識及び技術を演習を通して学修し、様々な健康レベルの状況にある対象者の、安全で、且つ安楽な療養生活を支援するための基本的技術を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全28回)</p> <p>(2) 掛田 崇寛/1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護職者の感染予防対策 <p>(2) 掛田 崇寛・(7) 豊増 佳子・20 岩屋 裕美・(10) 青木 恵美子/14回) (共同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衛生的な手洗い復習及び滅菌手袋装着演習、ガウンテクニック演習 <p>(20 岩屋 裕美/4回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動及び移送の講義、安楽の講義 <p>(7) 豊増 佳子・20 岩屋 裕美・(10) 青木 恵美子/6回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩行支援及び車椅子演習、ストレッチャー演習、安楽演習(体圧分散・Cooling)、リラクゼーション演習、食事介助・口腔ケア演習、経鼻経管栄養法演習 <p>(7) 豊増 佳子・(10) 青木 恵美子/1回) (共同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食生活の講義 <p>(7) 豊増 佳子/2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清潔の講義Ⅰ、清潔の講義Ⅱ 	オムニバス・共同(一部)
	基礎看護学技術Ⅲ (診療支援技術)	<p>看護の対象が安全・安楽に受療可能なように診療の補助に関する基本的な援助技術について学修し、その知識と技術について修得する。演習では主に医師が行う診療介助に関する知識や技術、対象者への診療時の看護について学修するとともに、当該技術のエビデンスや原理・原則をふまえて理解していく。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(2) 掛田 崇寛/2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診療の補助行為に対する看護の講義(医療事故予防を含む)、呼吸を整える援助技術 <p>(2) 掛田 崇寛・(7) 豊増 佳子・20 岩屋 裕美・(10) 青木 恵美子/8回) (共同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酸素療法演習、口腔内吸引演習、採血及び検体採取演習、与薬に関する講義、与薬調剤演習、点滴静脈内注入療法演習、総合演習、基礎看護学技術Ⅲまとめ <p>(7) 豊増 佳子/2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検査に関する講義Ⅰ、検査に関する講義Ⅱ <p>(20 岩屋 裕美/1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸血療法に関する講義 <p>(7) 豊増 佳子・(10) 青木 恵美子/1回) (共同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院時の看護とエンゼルケア技術に関する講義 	オムニバス・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 看護 学 技 術	基礎看護学技術Ⅳ (フィジカルアセスメント)	<p>フィジカルアセスメントは、看護職が身に付けるべき重要な能力である。健康状態のアセスメントに必要な客観的・主観的情報を系統的に身体計測する意義やフィジカル・アセスメントの概念、フィジカル・イグザミネーションの方法等、看護実践に必要な基本的な技術を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全28回)</p> <p>(② 掛田 崇寛／3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルスアセスメントの意義と看護の役割、フィジカルアセスメントとは、対象者の状態把握のための意識レベル判定、生命維持反応の観察 <p>(20 岩屋 裕美／4回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイタルサインの測定演習、シュミレーション事例演習（正常反応の把握）、循環器系のフィジカルアセスメントの講義、中枢神経系のフィジカルアセスメントの講義 <p>(⑦ 豊増 佳子・20 岩屋 裕美・⑩ 青木 恵美子／15回) (共同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸系のフィジカルアセスメントの講義、呼吸系のフィジカルアセスメント演習（基礎編）、呼吸系のフィジカルアセスメント演習（実践編）、循環系のフィジカルアセスメント演習（基礎編）、循環系のフィジカルアセスメント演習（実践編）、胸部の系統的アセスメント演習、胸部の系統的アセスメント演習（応用編）、腎/泌尿器系、生殖器系のフィジカルアセスメントの講義、消化器系のフィジカルアセスメント演習、腎/泌尿器系、生殖器系のフィジカルアセスメント演習、腹部（消化器系・腎/泌尿器系、生殖器系）の系統的アセスメント演習（応用編）、シュミレーション事例（胸部/腹部）演習、中枢神経系・感覚系のフィジカルアセスメントの演習、運動系のフィジカルアセスメントの演習 <p>(⑦ 豊増 佳子・⑩ 青木 恵美子／1回) (共同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消化器系のフィジカルアセスメントの講義 <p>(⑦ 豊増 佳子／2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感覚系のフィジカルアセスメントの講義、運動系のフィジカルアセスメントの講義 <p>(② 掛田 崇寛・⑦ 豊増 佳子・20 岩屋 裕美・⑩ 青木 恵美子／3回) (共同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィジカルアセスメント総合演習1、フィジカルアセスメント総合演習2、フィジカルアセスメントまとめ 	オムニバス・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	基礎看護学技術V (看護過程)	<p>看護過程とは、科学的な問題解決法を用いた思考過程であり看護の実践そのものである。本科目では、対象者の看護を実践するために必要な看護過程に関する知識と、臨地で看護展開するための方法について学修する。本科目では紙面患者（事例）を通して、アセスメントから問題点の抽出、計画、実施、評価の一連のプロセスの意義とその方法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全14回)</p> <p>(2) 掛田 崇寛／4回 ・看護過程の概要、健康上の問題を明確化するためのアセスメント、看護診断について、中範囲理論の活用について</p> <p>(7) 豊増 佳子／1回 ・情報管理と看護記録</p> <p>(7) 豊増 佳子・(10) 青木 恵美子／2回) (共同) ・関連図と統合について、看護計画の立案と問題評価、看護要約について</p> <p>(2) 掛田 崇寛・(7) 豊増 佳子・20 岩屋 裕美・(10) 青木 恵美子／7回) (共同) ・看護過程紙面事例・情報分類、紙面事例展開-事例アセスメント、紙面事例展開-健康上の問題の統合と看護診断、紙面事例展開-看護計画の立案、紙面事例展開-追加情報に対する実施記録と評価、紙面事例展開-看護事例の要約、講義まとめ</p>	オムニバス・共同（一部）
	看護コミュニケーション論Ⅰ（基本）	<p>看護において、コミュニケーションが人々との相互の関係に影響することを理解し、信頼関係の形成、人間関係の構築において必要となるコミュニケーションの仕組みと、基本的な方法について、ロールプレイやプロセスレコードに関する演習などを入れながら、自身のコミュニケーションパターンについても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全7回)</p> <p>(2) 廣川 聖子／1回 ・看護におけるコミュニケーション</p> <p>(20 岩屋 裕美／1回) ・自己紹介、人をより深く知るためのコミュニケーション</p> <p>(2) 廣川 聖子・20 岩屋 裕美／5回) (共同) ・コミュニケーションのタイプ（バーバル、ノンバーバル等）、積極的傾聴と共感、アサーティブなコミュニケーション、プロセスレコードの考え方、プロセスレコードの実際</p>	オムニバス・共同（一部）
	看護コミュニケーション論Ⅱ（発展）	<p>実習での経験を踏まえて、ロールプレイやディベート、事例検討を通して、対象者との良好な人間関係形成の技術や、患者との治療的な関係作り、多職種連携における協働体制の形成について必要なコミュニケーション方法を学ぶ。各領域の教員が参加し、コミュニケーションが困難な事例や複雑なコミュニケーション手法が必要な事例を挙げて、問題解決的な手法で对患者、対家族、対他職種とのコミュニケーションのあり方を学ぶ。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	看護倫理学Ⅰ（基本）	<p>社会のグローバル化、高齢化社会と疾病構造の変容、従来の価値観の変化などを背景に医療現場では様々な倫理的問題が出現してきている。看護の基盤となる人々の基本的人権を理解し擁護する必要性を認識でき、看護職としての倫理観を持ち法令を遵守して行動できるよう、看護倫理の概念、理論、歴史、倫理綱領などから基礎的な知識を学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全7回）</p> <p>〔5〕 山崎 由美子／2回） ・道徳と倫理、現代医療における倫理的課題：出生前診断、遺伝子治療、妊娠中絶、男女産み分け、代理出産</p> <p>〔14〕 吉田 みつ子／2回） ・看護師と倫理規定、保健師助産師看護師法と倫理的責務、倫理原則および看護実践上重要な倫理的概念、倫理的問題を検討するための方法論</p> <p>〔5〕 嵐 弘美／2回） ・患者の自律、アドボカシー、インフォームド・コンセント、秘密保持、現代医療における倫理的課題：看護師が精神科医療の現場で経験する倫理的課題</p> <p>〔5〕 山崎 由美子／1回） ・模擬シンポジウム：倫理に関するテーマを決めて、川崎市の保健医療職の参加を得て実施する</p>	オムニバス
	看護倫理学Ⅱ（発展）	<p>看護職の倫理綱領や生命科学倫理の4原則を理解したうえで、倫理的判断力を向上につなげるよう、実践的に学ぶ。具体的には、各看護学領域の教員が倫理的ジレンマが生じやすい症例などを提供し、模擬ケア検討会議や模擬倫理的コンサルテーションを行う。また、隣地実習で経験した倫理的ジレンマを生じる事例等を取り上げ、解決に導く方法を学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全7回）</p> <p>〔14〕 吉田 みつ子／2回） ・倫理的ジレンマとは、倫理コンサルテーションとは</p> <p>〔2〕 掛田 崇寛・〔3〕 難波 貴代・5 洲崎 好香・① 佐藤 文・8 瀧田 英津子・9 田中 千代・〔5〕 山崎 由美子・② 廣川 聖子／1回）（共同） ・実習などで感じた倫理上の問題・課題を出し合ってみよう</p> <p>〔2〕 掛田 崇寛／1回） ・事例検討1 成人看護学領域における事例の検討</p> <p>〔5〕 洲崎 好香・② 廣川 聖子／1回）（共同） ・事例検討2 精神看護学療育における事例の検討</p> <p>〔9〕 田中 千代・〔5〕 山崎 由美子／1回）（共同） ・事例検討3 親子保健、母子保健における事例の検討</p> <p>〔①〕 佐藤 文・8 瀧田 英津子／1回）（共同） ・事例検討4 老年看護活動における事例の検討</p>	オムニバス・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域	地域・在宅看護学概論	<p>生活の場としての地域・社会の意味を考え、住み慣れた地域で生活する人々とその家族を理解し、地域包括ケアシステムについての基礎を学ぶ。生活の場としての地域・社会の意味を考え、地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における看護展開の基礎を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全14回)</p> <p>(③ 難波 貴代／8回)</p> <p>在宅看護の位置づけ、機能と役割、定義と目的、在宅看護の倫理と基本理念、在宅ケアと在宅看護および訪問看護、在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件、在宅療養者と家族、訪問看護の特徴、在宅ケアとケアマネジメント、今後の在宅看護の展望および授業内定期試験</p> <p>(③ 木全 真理／6回)</p> <p>地域包括ケアシステムにおける在宅でのネットワーク、川崎市における地域包括ケアシステム（介護、予防、住まい、医療、生活支援）、川崎市の社会資源活用と在宅看護にかかわる保険制度、川崎市の地域包括ケアシステムと居宅サービス（高齢者）、川崎市の地域包括ケアシステムと地区ごとの居宅サービス（GW高齢者）、川崎市の地域包括ケアシステムと居宅サービス（障害者）</p>	オムニバス
	地域	地域・在宅看護学方法論	<p>地域で生活する療養者と家族に対して対象の看護展開方法を学ぶ。地域の特性と健康課題のアセスメント方法、健康な生活を支援する方法を理解する。また地域での終末期看護を含めて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全14回)</p> <p>(③ 難波 貴代／5回)</p> <p>訪問看護ステーションと居宅介護支援事業所、訪問看護の概要①：記録物など（報告書、計画書、訪問看護指示書）、在宅における生活援助技術⑦：呼吸の援助①（アセスメント（呼吸音と聴診を含む）と援助技術）と援助技術、在宅における生活援助技術⑧：呼吸の援助②（在宅酸素療法）、在宅における生活援助技術⑨：呼吸の援助③（在宅人工呼吸療法）</p> <p>(21 笠原（中山） 順子／4回)</p> <p>在宅における生活援助技術①：食の援助①（嚥下評価など）、在宅における生活援助技術②：食の援助②（在宅経管栄養）、在宅における生活援助技術③：清潔の援助（在宅における清潔のアセスメントと援助技術）、在宅における生活援助技術④：移動および移乗の援助（アセスメントと援助技術）</p> <p>(22 田中 悠美／2回)</p> <p>在宅における生活援助技術⑤：排泄の援助①（排泄のアセスメントと援助技術）、在宅における生活援助技術⑥：排泄の援助②（オムツ交換、摘便などの援助技術）</p> <p>(③ 木全 真理／3回)</p> <p>在宅における生活援助技術⑩：ターミナル期の援助①（がん患者）、在宅における生活援助技術⑫：ターミナル期の援助②（慢性閉塞性肺疾患）、在宅における生活援助技術⑬：ターミナル期の援助③（家族へのグリーフケア）</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
在宅看護論	地域・在宅看護学演習	<p>住み慣れた地域で暮らしを続けるための看護を実践するために、地域社会の文化・習慣が個人や家族の及ぼす影響についてアセスメントし、地域包括ケアシステムの観点から、在宅における医療管理・生活支援について学ぶ。（在宅看護におけるフィジカル・アセスメント、看護過程の演習含む）</p> <p>(③ 難波 貴代 / 2回)</p> <p>・訪問看護の展開①：国際生活機能分類（ICF）を学ぶ、訪問看護の展開②：事例で使用された訪問看護ステーションの記録物、事例の居宅介護支援計画書、居宅介護支援経過他など</p> <p>(③ 難波 貴代・③ 木全 真理・21 笠原(中山) 順子・22 田中 悠美 / 12回) (共同)</p> <p>・訪問看護の展開③：事例の理解、訪問看護の展開④：事例の基礎情報をICFに基づき情報分類、訪問看護の展開⑤：訪問看護記録などの記録物からA事例のフェイスシート作成、訪問看護の展開⑥：事例のイメージ図作成、訪問看護の展開⑦：事例の疾病の説明、訪問看護の展開⑧：事例から関連図の作成（病態から看護ケアまで）、訪問看護の展開⑨：事例から関連図の作成（病態から看護ケアまで）、訪問看護の展開⑩：事例の問題点抽出、訪問看護の展開⑪：事例の看護計画、訪問看護の展開⑫：シュミレーション学習（訪問看護の展開②から④までの事例を用いる）、訪問看護の展開⑬：シュミレーション学習（訪問看護の展開⑧から⑩までの事例を用いる）</p>	共同（一部）
	地域包括ケア実践Ⅱ（継続看護）	<p>在宅から病院に入院するまたは、病院から退院する対象者が、家庭や地域社会で生活の質を保ち安心して生活するために必要な医療福祉サービスを継続するための看護、福祉分野との連携の必要性ならびに調整方法の実際について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式 / 全14回)</p> <p>(③ 難波 貴代 / 6回)</p> <p>医療機関における入退院時の連携①：退院支援と退院調整、医療機関における入退院時の連携②：多職種連携・地域連携、医療機関における入退院時の連携③：医療機関から介護施設との連携、看護が担うケースマネジメントとケアマネジメント（理念と目的、ケアマネジャーの役割）、訪問看護とケアマネジメント（在宅療養での多職種連携）、訪問看護とケアマネジメント（ケアプランの把握、修正、変更）</p> <p>(③ 木全 真理 / 4回)</p> <p>地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携①：行政機関との連携（介護保険申請）、地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携②：地域包括支援センターとの連携、地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携③：居宅介護支援事業所との連携、地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携④：介護サービス事業所との連携</p> <p>(21 笠原(中山) 順子 / 2回)</p> <p>介護保険制度におけるケアマネジメント③（サービス担当者会議、ケアプランの決定）、介護保険制度におけるケアマネジメント④（サービス提供、給付管理在宅におけるサービス担当者会議）</p> <p>(22 田中 悠美 / 2回)</p> <p>介護保険制度におけるケアマネジメント①（インテーク、アセスメント）、介護保険制度におけるケアマネジメント②（ケアプラン原案作成）</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	成人看護学概論	<p>成人看護の基盤となる概念、成人期にある人の健康課題、発達課題を踏まえ身体的・精神的・社会的特徴、看護の特徴について学ぶ。また、発症リスクの高い健康問題と看護の特徴、成人看護を支える諸制度について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全7回)</p> <p>(④ 糸井 裕子/5回) 成人期の位置づけと成長発達の特徴、成人期の健康問題の特徴とリスクファクター、健康のレベルと経過に対応した看護の特徴、成人に対する基本的アプローチの主要概念:自己効力・セルフケア、成人の健康問題を分析するための枠組み(ゴードン)</p> <p>(15 松田 有子/1回) 成人に対する基本的アプローチの主要概念:危機・ストレス-コーピング</p> <p>(④ 牛尾 陽子/1回) 成人に対する基本的アプローチの主要概念:受容過程・セルフケアの再獲得</p>	オムニバス
	成人看護学方法論 I (急性期)	<p>急激な健康破綻をきたした対象に対する基本的な看護について学ぶ(周術期、地域において手術後の管理を必要とする対象を含む)。また基本的な救命処置の方法を理解し模擬的に実践する。各疾患の病態のみならず検査、治療、合併症、予後などについて事例を用い説明し、経過における看護の優先順位、役割について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(④ 糸井 裕子/1回) 急性期ある成人とその家族の特徴と看護</p> <p>(15 松田 有子/6回) 周手術期にある患者・家族の看護(1) 術前・術中(胃がん)、周手術期にある患者・家族の看護(2) 術後(胃がん)、急性の消化・吸収機能障害をもつ患者の看護(看護過程)(胃がん・大腸がん)、急性の消化・吸収機能障害をもつ患者の看護(看護過程)(胃がん・大腸がん)、急性の呼吸機能障害をもつ患者の看護(肺がん)</p> <p>(④ 牛尾 陽子/7回) 急性の循環機能に障害をもつ患者の看護(心筋梗塞・冠動脈)、急性の性・生殖機能に障害をもつ患者の看護(乳がん・前立腺がん)、急性の脳神経機能に障害をもつ患者の看護(くも膜下出血・脳梗塞)、急性の運動機能に障害をもつ患者の看護(脊髄損傷)</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
成人 看護学	成人看護学方法論Ⅱ (慢性期・終末期)	<p>回復期・リハビリテーション期にある対象への必要な療養やセルフケアについて、就労、社会、家族生活との両点の観点から支援できるよう学ぶ。また地域において長期間の疾病管理、回復段階に応じたかわりを必要とする対象へのサービスなど、各発達段階と健康障害に応じた支援方法を学ぶ（がんサバイバー、治療と仕事の両立：外来実習とのリンク）。終末期では、対象の個別性、価値観、家族、社会背景を踏まえた基本的な看護について学ぶ。また、地域における緩和ケアについても学ぶ。さらに、パリアティブケアの理念、倫理的問題、尊厳を支える看護実践とは何かについて考察し、必要な看護ケアを学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全14回)</p> <p>(4) 糸井 裕子／8回 慢性の呼吸機能障害をもつ患者と家族の看護の特徴、慢性の呼吸機能障害をもつ患者と家族の看護：COPD、慢性の循環機能障害をもつ患者と家族の看護：心不全、慢性の栄養摂取・代謝機能障害をもつ患者と家族の看護：C型肝炎・肝硬変、パリアティブケアの概念と特徴、がん治療（放射線治療）における看護：喉頭がん、がん治療（化学療法）における看護：すい臓がん、終末期にある対象と家族のケアの特徴</p> <p>(10) 平井 孝次郎／2回 慢性の栄養摂取・代謝機能障害をもつ患者と家族の看護：糖尿病Ⅰ、慢性の栄養摂取・代謝機能障害をもつ患者と家族の看護：糖尿病Ⅱ</p> <p>(15) 松田 有子／2回 慢性の内部環境調節障害をもつ患者と家族の看護：腎不全Ⅰ、慢性の内部環境調節障害をもつ患者と家族の看護：腎不全Ⅱ</p> <p>(4) 牛尾 陽子／2回 慢性の免疫機能障害をもつ患者と家族の看護：関節リウマチ、慢性の免疫機能障害をもつ患者と家族の看護：ALS</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	成人看護学演習	<p>看護師がとらえた対象の兆候（特に発熱・意識障害・呼吸困難など）に注目し、経過から推測される原因疾患について構造・機能・病態に基づいた看護におけるアセスメント、問題点の抽出、看護計画の立案など看護過程の展開を通して必要な看護実践を学ぶ。また、高機能シミュレーター等を用い、実際に様々な状況を想定し、変化する患者の状態への対応を学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全14回）</p> <p>④ 糸井 裕子／1回</p> <ul style="list-style-type: none"> 全身麻酔で手術を受けた患者の看護（術後）：1）オリエンテーション 2）事例の紹介、情報の整理 <p>④ 牛尾 陽子／2回</p> <ul style="list-style-type: none"> 全身麻酔で手術を受けた患者の看護（術直後）：アセスメント 全身麻酔で手術を受けた患者の看護（術直後）：アセスメント・看護問題 <p>⑮ 松田 有子／4回</p> <ul style="list-style-type: none"> 全身麻酔で手術を受けた患者の看護（術直後）：計画立案 全身麻酔で手術を受けた患者の看護（術後第1病日）：アセスメント・看護問題、計画立案 <p>④ 糸井 裕子・⑮ 松田 有子・④ 牛尾 陽子・⑩ 平井 孝次郎／6回）（共同）</p> <ul style="list-style-type: none"> シミュレーション①意識障害・呼吸困難 シミュレーション②発熱・ドレーン管理・創傷管理 シミュレーション③創部痛・初回の離床 シミュレーション④慢性期にある患者の事例（気管支喘息） シミュレーション⑤慢性期にある患者の事例（肺炎、脳梗塞） シミュレーション⑥慢性期にある患者の事例（肝硬変・貧血傾向） <p>⑩ 平井 孝次郎／1回</p> <ul style="list-style-type: none"> 症状と原疾患との関連と看護：1）オリエンテーション、2）貧血、ショック、喘息発作の病態と看護、3）糖尿病 	オムニバス・共同（一部）
	老年看護学概論	<p>高齢者の生活機能の維持・向上を目指して、高齢者の生活と健康の理解に必要な概念や理論、認知機能障害を含めた加齢に伴う身体的・精神的・社会的特徴とアセスメントに必要な知識を修得し、老年看護に必要な看護の基本を学ぶ。また、高齢者と高齢者を取り巻く環境を支えるために必要な保健・医療・福祉制度、高齢者の権利擁護及び老年看護における看護職の役割について学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全7回）</p> <p>① 佐藤 文／4回</p> <ol style="list-style-type: none"> 高齢者の理解①、2. 高齢者の理解②、5. 高齢者の生活と健康を支える看護①、6. 高齢者の生活と健康を支える看護③ <p>⑧ 澁田 英津子／3回</p> <ol style="list-style-type: none"> 高齢者の生活機能のアセスメント、4. 高齢者の健康を支える看護②、7. 保健・医療・福祉制度、老年看護の目標と役割 	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
老年看護学	老年看護学方法論	<p>高齢者を取り巻く環境をアセスメントしたうえで、高齢者の生活および健康を支える看護について学ぶ。特に、高齢者の健康の維持と介護予防、エンド・オブ・ライフケア、薬物療法といった多様な健康状態に応じた看護、高齢者に特有な廃用症候群、脱水症、摂食嚥下障害、低栄養、睡眠障害、感覚機能障害、骨折、認知症、せん妄などの症候・疾患・障害への看護について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全14回)</p> <p>(8 淵田 英津子／4回) 高齢者の生活・健康障害と看護、フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム、エンド・オブ・ライフケア、介護者家族へのケア</p> <p>(Ⅱ 岩瀬 和恵／5回) 視覚・聴覚障害、活動と休息のバランス、睡眠障害、脱水、低栄養、摂食・嚥下障害、せん妄、老年期うつ、高齢者の薬物療法と服薬支援</p> <p>(① 佐藤 文／5回) 皮膚掻痒症、スキン-テア、褥瘡、医療機器関連圧迫創傷（MDRPU）、排尿障害、排便障害、失禁関連皮膚炎（IAD）、骨粗鬆症、骨折、感染症、高齢者の権利擁護</p>	オムニバス
	老年看護学演習Ⅰ (症状・治療への支援)	<p>高齢者がその人らしく生活を維持・継続できる看護を実践するために、多様な生活の場における高齢者と高齢者を取り巻く環境についてアセスメントし、高齢者の現存能力を生かした看護計画が立案できる知識や思考力を習得する。また、事例やシミュレーターを用いて、老年看護に必要な基本的技術を実践的に学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全14回)</p> <p>(① 佐藤 文／4回) 高齢者施設・サービスの特徴とその役割（介護老人保健施設・介護老人福祉施設・サービス付き高齢者住宅・デイケア・デイサービス等）、高齢者をとりまく環境のアセスメント（人的資源・物的資源・社会的資源）、レクリエーションとその効果</p> <p>(8 淵田 英津子／2回) 高齢者施設における看取り、高齢者の身体機能の合わせた看護（介護予防のためのケア）</p> <p>(① 佐藤 文・8 淵田 英津子・Ⅱ 岩瀬 和恵・Ⅲ 杉原 真裕子／7回) (共同) 高齢者の身体機能の合わせた看護（脆弱な皮膚のケア（スキン-テア、IAD、MDRPU））、高齢者の身体機能の合わせた看護（褥瘡予防のためのアセスメントと体圧分散のケア）、看護過程の展開（個人ワーク、グループワーク）（高齢者理解に必要な情報とその解釈）、看護過程の展開（個人ワーク、グループワーク）（情報の分析・統合、健康上の課題の抽出）、看護過程の展開（個人ワーク、グループワーク）（看護目標の設定、看護計画の立案）、看護過程の展開（グループワーク 発表（前半））、看護過程の展開（グループワーク 発表（後半））</p> <p>(① 佐藤 文・Ⅱ 岩瀬 和恵／1回) (共同) 低栄養、摂食・嚥下障害のある人へのケア</p>	オムニバス・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門	老年看護学演習Ⅱ (認知症ケア)	<p>認知症高齢者の看護の基本に必要な国内外の認知症対策・認知機能障害と行動・心理症状、認知症の理解に必要な治療とアセスメントの視点、社会資源・倫理的課題について、事例、認知症高齢者や介護者の体験、専門職によるアプローチから学ぶ。また、認知症高齢者の現存能力を生きしながら、認知症高齢者の身体的・精神的・社会的変化と生活を関連付けて、包括的に認知症高齢者を看護する基本的な実践能力について学ぶ。</p> <p>(8 淵田 英津子/7回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者の動向、認知症の定義と診断基準、認知症に対する国の施策と社会資源 ・認知症の原因となる疾患と認知機能障害 ・認知症高齢者に用いる認知機能障害と行動・心理症状の評価尺度と評価時留意点 ・認知症高齢者のケア、薬物療法、非薬物療法 ・認知症高齢者と介護者の現状、認知症ケアに携わる専門職の役割 ・病院における認知症高齢者のケアと多職種協働 ・介護施設における認知症高齢者のケアと多職種協働 <p>(8 淵田 英津子・① 佐藤 文・Ⅱ 岩瀬 和恵・Ⅲ 杉原 真裕子/7回) (共同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者と介護者の意思決定：事例検討、個人ワーク、グループワーク ・認知症高齢者の看護過程：目標思考型思考の理解、事例の理解 ・認知症高齢者の看護過程（講義）：情報の分析・解釈・推察 ・認知症高齢者の看護過程（実際）：情報の分析・解釈・推察 ・認知症高齢者の看護過程（グループワーク）：統合、看護目標の設定、看護計画の立案 ・認知症高齢者の看護過程（発表）：統合、看護目標の設定、看護計画の立案 ・認知症高齢者の看護過程：学びの共有、まとめ 	共同（一部）	
		小児看護学概論	<p>新生児期から思春期及び成人移行期である青年期を含めて、子どもと家族を対象とした看護の基盤となる概念、各発達段階における身体・認知・心理・社会面の特徴及び日常生活の特徴と養育について学ぶ。さらに子どもと家族を取り巻く社会動向をもとに子どもを支える諸制度について学び、現代社会に生きる子どもと家族の特徴をふまえ、子どもの健やかな発達を促す支援について理解する。</p>	
	小児看護学	小児看護学方法論	<p>健康障害が子どもと家族に及ぼす影響と子どもと家族の看護について学ぶ。小児期における対症看護、及び健康障害の特性や病気・場によるケアニーズの特徴をふまえ、健康の維持・回復、苦痛の緩和、安全・安楽のための援助について理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(9 田中 千代/7回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児医療における疾病構造と看護の課題、健康障害が子どもと家族に及ぼす影響と看護、小児看護と倫理、プレパレーション、さまざまな環境における小児看護等について学ぶ。 <p>(⑧ 笠井 由美子/3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器疾患、アレルギー疾患、感染症をもつ子どもと家族の看護等について学ぶ。 <p>(⑦ 木村 紀子/4回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腎疾患、先天性心疾患、ハイリスク新生児、障害のある子どもと家族の看護等について学ぶ。 	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
母性看護学	小児看護学演習	<p>健康障害をもつ子どもと家族の看護実践に向けて、紙上事例を用いて看護過程展開のための知識や思考方法を修得する。また、小児看護における基本的な援助技術についてモデルやシミュレーターを用い、様々な状況を想定し、変化する子どもの状態に応じた子どもと家族への対応について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(9 田中 千代/2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児看護における看護過程、検査・処置を受ける子どもと家族の看護について学ぶ。 <p>(9 田中 千代・⑦ 木村 紀子・⑧ 笠井 由美子・34 村田 翔/12回) (共同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例展開や技術演習を通じて、小児看護における基本的な援助技術や看護過程展開のための知識等について学ぶ。 	共同 (一部)
	母性看護学概論	<p>リプロダクティブヘルス/ライツの視点から、対象者の特徴を踏まえた母性看護の基盤となる概念、女性の各ライフステージにおける健康を促進(維持・増進)する看護、マタニティサイクルにおける母子とその家族のケア、地域における母性看護の概要について学ぶ。また、人工妊娠中絶、不妊、出生前診断、性感染症、性暴力、災害時妊産婦など現実的な課題の実態と背景、及びその支援の在り方についても学ぶ。</p>	
	母性看護学方法論	<p>「母性看護学概論」での学びを基盤として、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における対象や家族に対する基本的な看護について学ぶ。また、地域における母子とその家族に対する看護について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(⑤ 山崎 由美子/2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期にある母子の健康状態を保持・増進するための看護について学ぶ。 <p>(⑨ 永田 智子/4回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期や分娩期にある母子の健康状態を保持・増進するための看護等について学ぶ。 <p>(28 五味 麻美/6回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産褥期にある母子や新生児の健康状態を保持・増進するための看護等について学ぶ。 <p>(28 五味 麻美・⑨ 永田 智子/2回) (共同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会における切れ目ない妊娠・出産・子育て支援について学ぶ。 	オムニバス・共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
精神看護学	母性看護学演習	<p>マタニティサイクルにおける母子とその家族に看護援助を实践するうえで必要な知識および看護技術を修得する。また、看護過程の展開を通して、看護実践を実施するための知識を学ぶ。また、高機能シミュレーション等を用い、実際に様々な状況を想定し、変化する患者状態への対応を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(15) 山崎 由美子/1回) ・ウェルネスの視点に基づいた看護過程について学ぶ。</p> <p>(9) 永田 智子/4回) ・妊婦と産婦の看護過程について学ぶ。</p> <p>(28) 五味 麻美/4回) ・褥婦と新生児の看護過程について学ぶ。</p> <p>(28) 五味 麻美・(9) 永田 智子/4回) (共同) ・妊婦・産婦・褥婦・新生児の健康状態を保持・増進するための看護技術について学ぶ。</p> <p>(15) 山崎 由美子・28) 五味 麻美・(9) 永田 智子/1回) (共同) ・セルフケア能力を高める保健指導演習について学ぶ。</p>	オムニバス・共同 (一部)
	精神看護学概論	<p>心のケアが必要な対象への精神看護の基盤となる概念、ライフサイクルの各段階を特徴づける精神的危機状況と精神的健康を増進するための看護の特徴、精神保健関連法規について学ぶ。また、地域における精神看護の概要についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全7回)</p> <p>(2) 廣川 聖子/4回) ・精神医療の現状と課題、身体とこころ、ライフサイクルと精神保健、心の動きについて学ぶ。</p> <p>(5) 嵐 弘美/3回) ・精神保健医療の歴史と法制度、地域における精神医療、精神科における多職種とチーム医療について学ぶ。</p>	オムニバス
	精神看護学方法論	<p>心のケアが必要な人の理解と看護援助の基本を学び、メンタルヘルス上の問題の予防、早期発見、治療、リカバリー(回復)を支援する看護実践について統合的に学ぶ。また、地域において心のケアが必要な対象への基本的な看護についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(5) 嵐 弘美/5回) ・精神医療の理解と精神看護、精神疾患を持つ人の理解、精神科における合併症をもつ人の看護、リエゾン精神看護について学ぶ。</p> <p>(30) 加藤 博之/4回) ・統合失調症の理解と看護、セルフケア理論を用いたアセスメント、薬物療法と看護、地域生活と社会資源について学ぶ。</p> <p>(2) 廣川 聖子/5回) ・気分障害のある人の理解と看護、依存症の理解と看護、司法精神看護、当事者主体のリカバリーについて学ぶ。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	精神看護学演習	<p>看護の基本である患者－看護師間の治療的関わりや対人関係能力のスキルを修得すると共に、心のケアが必要な対象者へのセルフマネジメントの方法や、ケアプランの実際を通して、発達課題や各疾患に応じた看護実践について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全14回)</p> <p>(② 廣川 聖子／3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・援助的人間関係に生かすコミュニケーションスキルや依存症を持つ人や精神障害を持つ人の社会参加について学ぶ。 <p>(30 加藤 博之／2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・援助的人間関係に活用するプロセスレコードについて学ぶ。 <p>(② 廣川 聖子・⑤ 嵐 弘美・30 加藤 博之／6回) (共同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動制限と安全、看護計画の実際について学ぶ。 <p>(⑤ 嵐 弘美／3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身のセルフケアモニタリング、リエゾン精神看護と看護師のメンタルヘルスについて学ぶ。 	オムニバス・共同 (一部)
	保健指導・健康教育論	<p>健康を維持するための保健行動の獲得、疾患をマネジメントするための保健指導、対象者及び家族に合わせた健康増進、自立の促進等を目指した健康教育について方法の選択の考え方や支援の在り方について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全7回)</p> <p>(① 荒木田 美香子／3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護における保健指導・健康教育について学ぶ。 <p>(⑥ 遠藤 雅幸／2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健指導の実際や生活習慣病と保健指導について学ぶ。 <p>(① 荒木田 美香子・⑥ 遠藤 雅幸・⑨ 永田 智子／2回) (共同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康教育案の作成や発表を行う。 	オムニバス・共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	地域包括ケア実践 I (多職種協働)	<p>人口の高齢化に伴う多様な健康・生活課題が生じる中で、住み慣れた地域で生活を継続できる地域包括ケアシステムの構築に必要な多職種協働ケアの必要性を理解する。特に高齢者の健康に焦点をあて、保健医療福祉に関係する専門職の役割と機能について学ぶ。また、多職種が関わる病院に焦点をあて、保健医療福祉に関係する専門職が実践できるケア及び連携・協働を進めるための方法論を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(8 淵田 英津子・⑤ 山崎 由美子・③ 木全 真理/1回) (共同) ・多職種協働、包括ケアの概念、病院の高齢者を支える保健医療福祉に関連する専門職の役割・機能について学ぶ。</p> <p>(⑤ 山崎 由美子/3回) ・母と子の地域包括ケア、病院における薬剤師や管理栄養士の役割を学ぶ。</p> <p>(8 淵田 英津子・⑤ 山崎 由美子/1回) (共同) ・母と子の地域包括ケアとして保健師、保育士の役割を学ぶ。</p> <p>(③ 木全 真理/4回) ・リハビリテーションやケアマネージャー、医療相談センターの医師の役割、皮膚・排泄ケア認定看護師の役割等について学ぶ</p> <p>(④ 糸井 裕子/1回) ・緩和ケアにおける地域包括ケアを学ぶ。</p> <p>(8 淵田 英津子/2回) ・医療ソーシャルワーカーの役割や病院における老人看護専門看護師の役割について学ぶ。</p> <p>(④ 糸井 裕子・8 淵田 英津子・⑤ 山崎 由美子・③ 木全 真理/1回) (共同) ・模擬ケア検討会議の実施や専門職と地域との協働について学ぶ。</p>	オムニバス・共同 (一部)
	統合地域包括ケア演習	<p>4年間の看護学の学びを地域包括ケアにどのように展開していくことができるのかという視点で、事例への対応を通して、ケアプランを立て、シミュレーションなどを行う。小児から看取りまでの各健康レベルにある事例や多重課題や困難な事例や、急激に変化する場面について、アセスメントを行い、状況に応じた適切な看護を考えることを通して、思考力、判断力及び課題解決力を高める。また、20グループ程度に分割してグループ活動を行い、支援計画の発表、事例に応じたロールプレイを行うことにより、実践能力を高める。</p>	共同
	国際看護論	<p>看護師に求められるグローバルな視点、国内外の課題、異文化看護、国際看護の展開法（災害看護を含む）、看護師のキャリア（海外のNP、CRNA、PA制度）等についての知識を深め、国際社会・多様な文化における看護職の役割について学ぶ。また、異文化を考慮した基本的な看護の提供方法を理解する。諸外国における保健・医療・福祉の現状と課題について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全7回)</p> <p>(28 五味 麻美/3回) ・健康指標から読み解く健康格差、WHOの仕組みと看護、WHOとSDGs・UHC、国際協力の仕組み（災害支援、母子保健等）について学ぶ。</p> <p>(③ 難波 貴代/2回) ・ICNと海外の看護師制度と日本で暮らす外国人の健康について学ぶ。</p> <p>(21 笠原 (中山) 順子/2回) ・国際看護活動の実際と異文化理解と看護について学ぶ。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
看護 の 統 合 と 実 践	看護情報活用論	<p>医療や看護における情報化、情報の保護とプライバシー、電子カルテ、がん登録、DPC等の看護・医療情報システムに関する基本的事項を学習したうえで、今までの領域別実習での経験も踏まえ、病院、在宅、地域など様々な看護の場における情報活用の実践について学ぶ。</p> <p>また、医療、看護の質の評価は、医療現場で重要な課題となっており、質評価の実践を学修することにより、医療、看護の情報を活用した質評価について学ぶ。</p> <p>(7 豊増 佳子 / 5回) ・看護と情報、情報倫理と法、情報管理等、看護とICT、看護における情報活用について学ぶ。</p> <p>(7 豊増 佳子・18 高柳 良太 / 2回) ・情報リテラシー、コンピューターリテラシー、法制度等について学ぶ。</p>	共同（一部）
	災害看護学Ⅰ（基礎）	<p>災害発生に備えた心構えと支援の方法を学び、看護職の役割について考えることができる。災害サイクルや被災者の状況に応じた基本的な看護について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式 / 全7回) (74 石井 美恵子 / 2回) ・災害看護の概要、避難所と避難所におけるケアについて学ぶ。</p> <p>(4 糸井 裕子 / 2回) ・災害時の急性期看護、亜急性期看護、回復期看護について学ぶ。</p> <p>(12 大城 健一 / 2回) ・DMATの実践、自治体における防災体制について学ぶ。</p> <p>(1 坂元 昇 / 1回) ・災害とこころのケア及びDPATについて学ぶ。</p>	オムニバス
	災害看護学Ⅱ（発展）	<p>災害看護学Ⅰでの学習を基にマネジメントの観点から、様々な場面での災害看護を学ぶ。災害対策・災害訓練演習を通して、地域や被災者に必要な看護を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式 / 全7回) (1 荒木田 美香子 / 1回) ・災害と公衆衛生について学ぶ。</p> <p>(12 大城 健一 / 3回) ・救助時に必要な医学的知識、マスギャザリングと災害、災害と病院のBCPについて学ぶ。</p> <p>(3 難波 貴代 / 1回) ・在宅療養患者に対する災害看護活動について学ぶ。</p> <p>(1 荒木田 美香子・3 難波 貴代・12 大城 健一 / 2回)（共同） ・災害時に必要な看護技術、緊急時でできる看護技術について学ぶ。</p>	オムニバス・ 共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	看護マネジメント論	<p>組織における看護の役割、責任、リスクマネジメントについて学ぶ。また、患者安全の実際を見学、説明を通して看護師に必要なマネジメント能力について実践を通して学ぶ（地域における医療安全を含む）。</p> <p>（オムニバス方式／全7回）</p> <p>〔7〕 豊増 佳子／5回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護マネジメント総論：看護マネジメントの本質、看護サービスと意思決定 ・組織論：組織とは、組織管理、組織における看護の役割、責任 ・リーダーシップとマネジメント ・看護の質保証と資源管理—物的資源、予算、時間の管理— ・看護の質保証と資源管理—人的資源、情報の管理— <p>〔5〕 山崎 由美子／2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法・政策・制度・看護提供の場と看護マネジメント、倫理的課題 ・リスクマネジメントと医療事故、感染管理—リスクマネジメントの実際— 	オムニバス
	パリアティブケア	<p>成人看護学演習IVで緩和ケアを必要とする人の苦痛や苦悩について学習した後の発展科目である。疼痛の感じ方、緩和、支援方法についてより深く理解し、その人らしい生活が送れるように家族を含めた援助を行うとともに、穏やかな最期を迎えることができるようにするための看護の実際について学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全7回）</p> <p>〔2〕 掛田 崇寛／1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・痛みや痛みの特徴について学ぶ。 <p>〔4〕 糸井 裕子／3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦痛を和らげる治療や小児がんで子供を亡くした親の気持ち、緩和ケアの実際について学ぶ。 <p>〔3〕 木全 真理／1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピリチュアルケアについて学ぶ。 <p>〔2〕 掛田 崇寛・〔4〕 糸井 裕子・〔3〕 木全 真理／2回（共同）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦痛を和らげるための看護ケアや看取りのケアについて学ぶ。 	オムニバス・ 共同（一部）
	家族看護学	<p>療養者のみでなく療養者家族を一単位とした観点での看護を理解するために、家族の定義、家族の形態・機能、家族周期、家族システム等を含む家族看護の理論・モデル、家族理解とアプローチ等を家族間後の基本的な考え方について学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全7回）</p> <p>〔9〕 田中 千代／4回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の機能、家族の発達プロセス、家族看護の理論、家族のアセスメント、小児がんを持つ子供と家族への支援について学ぶ。 <p>〔3〕 難波 貴代／2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会と家族、高齢者虐待のある家族への支援について学ぶ。 <p>〔5〕 山崎 由美子／1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不妊、出産医に関する家族の支援について学ぶ。 	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	看護研究法概説	<p>看護研究の成果は看護実践の根拠として看護の対象である人々への支援に還元される。看護研究の必要性を理解し、研究成果と看護実践への活用例を具体的に知ることを通して、看護学における研究の必要性・意義・倫理の必要性を学ぶ。（研究論文のクリティーク、看護実践への文献活用の実際を含む）</p> <p>（オムニバス方式／全14回）</p> <p>① 佐藤 文／4回 ・看護実践と研究、リサーチクエスチョン、研究の倫理と倫理委員会、研究計画書の構成について学ぶ。</p> <p>③ 木全 真理／3回 ・研究の種類、質についてや文献検索の方法について学ぶ。</p> <p>① 佐藤 文・③ 木全 真理／7回（共同） ・文献検索を実際に行ってみることや量的研究、質的研究について、リサーチクエスチョンを作ってみること、研究計画書を作ってみることで学ぶ。</p>	オムニバス・共同（一部）
	看護研究Ⅰ（基礎）	<p>看護学において明確にしたいことや問題・疑問事項から研究課題を明らかにする。その課題について文献検討を行い、各自が具体的なリサーチクエスチョンを設定する。対象と方法に必要な倫理的配慮を行った研究計画を立案するプロセスを学ぶ。</p> <p>② 掛田 崇寛／2回 ・看護の研究倫理に関する手続きについて基本と実際を学ぶ。</p> <p>② 掛田 崇寛・③ 難波 貴代・5 洲崎 好香・④ 糸井 裕子・① 佐藤 文・8 淵田 英津子・9 田中 千代・⑤ 山崎 由美子・② 廣川 聖子・⑦ 豊増 佳子・③ 木全 真理・15 松田 有子・④ 牛尾 陽子・⑤ 嵐 弘美・20 岩屋 裕美・21 笠原（中山） 順子・22 田中 悠美・⑥ 遠藤 雅幸・⑩ 平井 孝次郎・⑪ 岩瀬 和恵・⑧ 笠井 由美子・28 五味 麻美・⑨ 永田 智子・30 加藤 博之・31 松田 真由美／12回（共同）</p> <p>・学生の研究の興味や関心に応じて、講師以上の教員に数名ずつ配分し、各領域ごとに指導方針を決めて、計画的に看護研究を進める。研究計画は看護学科内にもうけた学生のための倫理委員会において、審査を行う。</p>	共同（一部）
	看護研究Ⅱ（発展）	<p>看護研究Ⅰに続いた科目であり、一連の看護研究を実施する。看護研究Ⅰで立案した研究計画に基づいて、データの収集、分析、データのまとめ、考察を行い、看護研究をまとめる。さらに、学内研究発表会を行い、発表時のマナー、価値ある質問、発表会の運営を通して、看護研究の一連のプロセスを実践的に学ぶ。</p>	共同
	公衆衛生看護学概論	<p>個人・家族・集団・組織を含むコミュニティ（共同体）及び地域を構成する人々の集合体の健康増進・改善を目指すアプローチの基本的な考え方を学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全14回）</p> <p>⑤ 洲崎 好香／9回 公衆衛生看護学の概念や予防、健康の概念、その歴史などを学ぶ。また、公衆衛生看護活動の実際を学ぶ中で、「川崎市の動向」「地域包括ケアシステム」「産業保健」などを学ぶ。</p> <p>① 荒木田 美香子／5回 公衆衛生看護活動の実際の中で、「学校保健」を学び、地域の人々の保健関連行動の中で「健康課題への個人対処行動」「健康課題への地域組織としての対処」を学び、社会活動の変化と健康課題「社会情勢の変遷」「保健行動とヘルスリテラシー」を学ぶ。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学対象論 I (ライフステージ別)	<p>質の高い公衆衛生看護を提供するための取組を理解する目的で、公衆衛生看護管理についての基礎的な概念、管理方法について学ぶ。特にライフステージの観点から、潜在的・顕在的な健康課題とその関連要因や環境との相互作用について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(5 洲崎 好香/6回) 母子保健活動、精神保健活動、災害・健康危機管理、公衆衛生看護管理について学ぶ。</p> <p>(6 遠藤 雅幸/4回) 成人保健活動、高齢者保健活動、感染症保健活動、難病保健活動について学ぶ</p> <p>(5 洲崎 好香・6 遠藤 雅幸/4回) (共同) 現代社会における健康課題のアセスメントについて学ぶ。</p>	オムニバス・共同 (一部)
	公衆衛生看護学対象論 II (学校・産業)	<p>学校保健・学校看護・産業保健・産業看護の歴史・活動の目的・法規などを理解し、それぞれの場における具体的な活動の展開方法、地域保健との連携について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(1 荒木田 美香子/7回) 学校保健の仕組みと法制度 (WHOとヘルスプロモーション) 学校環境、学校保健活動の実際、子どもの発達と健康、学校における公衆衛生看護の展開、学校保健に関する健康分析、学校保健における健康危機管理、事故・事件、災害や感染症に対する学校保健の役割、国際学校保健、諸外国の学校保健について学ぶ。</p> <p>(5 洲崎 好香/7回) 産業における公衆衛生看護、産業保健師の役割、専門職としての倫理、産業保健を支える行政体系と法体系、変化する社会における労働と健康、人間工学の活用、産業における公衆衛生活動の展開、産業における公衆衛生看護の実際、危機における事業継続と産業保健、国際産業保健について学ぶ。</p>	オムニバス
	公衆衛生看護学方法論	<p>公衆衛生看護学概論での学びを基盤として、公衆衛生看護活動を行う際に必要となる理論、保健指導の方法、健康教育の方法、グループ支援等、公衆衛生看護活動における基本的な看護について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(5 洲崎 好香/8回) 保健指導の概念と理論：生活の場で展開されている保健指導 (ICT活用事例)、家族看護と理論について、コミュニケーション技術、健康教育の基礎となる理論やモデル 健康相談や健康診査について、健康教育の実際について学ぶ。</p> <p>(6 遠藤 雅幸/6回) 家庭訪問援助の実際、地域包括ケアシステムを必要とする健康課題、地域におけるグループのプロセスとグループ支援、地域ケアシステムの構築とネットワーク化について学ぶ。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	コミュニティアセスメント論	<p>地域診断の意義、目的、方法、施策化などの基本的方法を学習し、川崎市の各区のデータを収集し、分析、地区踏査を通して地域診断を行う。地域診断から保健事業計画につなげるプロセスを学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(5 洲崎 好香/3回) 地域を単位とする地域診断の概念、情報収集、パートナーシップ形成と文化理解について学ぶ。</p> <p>(6 遠藤 雅幸/2回) 地域を単位とする地域診断モデル、実践を導くためのモデル地域保健福祉計画について学ぶ。</p> <p>(5 洲崎 好香・6 遠藤 雅幸・32 原田 若奈/9回) (共同) 地域看護アセスメントと保健事業計画の立案について学ぶ。</p>	オムニバス・共同 (一部)
	公衆衛生看護学活動論	<p>公衆衛生看護学に関する講義・演習・実習を終えて、特に施策化について学びを深める。医療法で定める5疾患・5事業に加えて母子保健等の中から、学生がテーマを持ち寄り特定の課題について、学生同士の討論、発表を通して学び、公衆衛生における政策、施策、事業化への保健師の関わり、PDCAの実際について復習することにより、知識を再構成し、理解を深める。</p>	共同
	基礎看護学実習Ⅰ (基礎)	<p>医療機関における看護職の役割について理解するとともに、その機能や各部門との連携について学修する。また、実際の看護提供の場を見学することで、入院している対象者の生活について理解するとともに、将来看護職として従事する者としての意識づけにつなげる。さらに、患者とのコミュニケーションやバイタルサインの測定を通じて、看護とは何かを考え、自らの課題を把握し、主体的に看護を学修する姿勢を身に付ける。</p>	共同
	基礎看護学実習Ⅱ (看護過程)	<p>健康障害を有して入院生活を送っている対象を受け持ち、看護過程を展開しながら対象者の理解を深めるとともに、その時々の実施援助について、その意味や課題を検討しながら基礎的な実践能力を養う。また、実習を通してアセスメントの重要性や看護過程の一連のプロセスを体験的に学修する。さらに、対象者やその家族、医療スタッフとの関わりを通じて、看護職として要求される倫理観及びその態度を修得する。</p>	共同
	在宅看護学実習	<p>地域における生活者としての在宅療養者とその家族の生活の価値観や生活リズムなどを尊重した看護計画立案方法を修得する。在宅看護の実際を事例を通して学ぶと同時に、ケアマネジメント、チームケア、ケア提供システムを理解し地域包括ケアシステムを展開するための看護職の役割を修得する。</p>	共同
	地域包括ケア実習	<p>ケアの受け手となる人や在宅医療、地域包括ケアシステムに関わる多職種をつなぐマネジメントや保健・医療・福祉チームにおける協働と連携の方法を学ぶために、主に地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所で実習を行い、ケースの発見から、継続的なケアが構築されるまでのプロセスを実践的に学ぶ。</p>	共同
	成人・老年看護学実習Ⅰ (慢性期)	<p>慢性的経過をたどり生涯にわたって疾患と共に歩まなければならない対象や家族の身体的、精神的、社会的苦痛の緩和について理解を深め、日常生活の自立/自律に向けた回復過程を支援する。また対象の病態や、治療とその影響、合併症予防に適した看護を実践できる基本的な能力を修得する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
臨地実習	成人・老年看護学実習Ⅱ（急性期）	急速に健康状態が変化する（周術期や急激な病態の変化、救命処置を必要としている等）対象の病態や、治療とその影響について、対象特性と健康状態を踏まえて看護を実践する基本的な能力を修得する。また、対象を支える家族の身体的、心理的、社会的側面について学ぶ。	共同
	成人・老年看護学実習Ⅲ（セルフケア支援：外来）	外来通院しながら在宅で療養している対象や家族への看護支援や、外来看護に関する基礎的な概念、看護師の役割を学ぶ。がん化学療法、DM指導、フットケア対応場面など体験できることが望ましい。	共同
	成人・老年看護学実習Ⅳ（緩和ケア）	緩和ケアの概念と緩和ケアを必要とする対象や家族の特徴を理解し、身体的・精神的・社会的苦痛の緩和について理解を深め、その人らしく生きるための看護支援について学修し、看護を実践する基本的な能力を修得する。また、対象者及び家族を多様な場においてチームで支援する方法を学ぶ。	共同
	老年看護学実習Ⅰ（リハビリテーション看護）	介護老人保健施設に入所する高齢者を対象に、慢性期から回復し、高齢者の現存能力を活かしてその人らしい生活を継続するために必要な看護について学ぶ。また、高齢者を取り巻く保健・医療・福祉サービスの実態を知り、多職種と連携して高齢者の生活の場における看護職の役割について学ぶ。	共同
	老年看護学実習Ⅱ（認知症ケア）	認知症高齢者を対象に加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化、認知機能障害と行動・心理症状を関連付けて、高齢者の生活機能を維持するために必要な基本的な知識と技術を習得する。また、認知症高齢者の尊厳を保ちながら生活を継続するための多職種の役割と看護職の役割、多職種協働の実態について学ぶ。	共同
	小児看護学実習Ⅰ（病院）	健康障害をもつ子どもと家族への個別的な看護実践のための知識、技術、態度を修得するとともに、小児看護の役割について理解を深める。特に医療の場における子どもと家族の看護について、発達段階と健康障害の特徴をふまえたアセスメントとケアニーズの抽出、看護援助の実施・評価の過程を通して、小児看護における基本的な看護実践能力を修得する。	共同
	小児看護学実習Ⅱ（療育・特別支援学校）	小児看護学実習Ⅰでの学修を基盤に、健康障害をもちながら生活する子どもの健やかな発達に向けての看護支援について学ぶ。生活の場における子どもの看護に必要な基本的な実践能力を習得するとともに、長期的・継続的に医療や介助を要する子どもの家族への看護について理解を深める。また、施設間連携・多職種連携の実態、医療・福祉・教育の連携について学ぶ。	共同
	母性看護学実習Ⅰ（分娩期・病院）	分娩期の特徴を理解し、母子とその家族の身体的・精神的・社会的特徴とニーズを把握し、正常な経過を促進するために必要な看護の基礎的能力を修得する。また、保健医療チームの一員として協働する専門職としての行動の在り方を学ぶ。	共同
	母性看護学実習Ⅱ（妊娠期・子育て期）	周産期にある母性の特徴を理解したうえで母子とその家族を対象とし、家族の特徴を踏まえ、新しく形成される家族を支えるための看護の役割を学ぶ。また、多職種との協働・連携を含め、家族の発達を支える看護の基礎的能力を修得する。地域における母性看護の役割を考察するため健康支援の活動を体験する。	共同
	精神看護学実習Ⅰ（病院）	精神を病む人への理解を通して、日常生活援助の必要性を判断し実践する。また、患者一看護師間の治療的関わりや基礎的な看護実践能力を習得する。特に精神科病棟に入院している患者に対し、診断、治療、作業療法やカウンセリングを通じた治療や看護支援について学ぶ。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	精神看護学実習Ⅱ (デイケア)	精神を病む人への理解を通して、日常生活援助の必要性を判断し実践する。また、患者－看護師間の治療的関わりや基礎的な看護実践能力を習得する。さらに地域で生活する精神障害者の社会復帰施設における多職種連携の実際や必要な社会資源について学ぶ。	共同
	看護マネジメント実習	看護チームの一員として看護実践の場に参加し、看護ケアマネジメントや組織看護マネジメントの実際を把握する。看護師の行う看護管理プロセスを見学し、看護管理の果たす機能や課題について知り、看護の果たす役割について考察する。またチーム医療・多職種との協働の実際を学ぶ。	共同
	発達と暮らしへの支援 実習（幼児と高齢者の 生活）	健康な乳幼児及び高齢者が集う場所（保育園、市内の高齢者の集まり）で、子どもや高齢者との実際のかかわりを通して、ヒトの発達段階とその暮らしの在り方を学ぶ（それぞれ二日ずつ）。また、対象者を尊重する姿勢や態度、対象者とのコミュニケーションの方法、感染予防や事故防止を含めた日常生活援助の方法について体験的に学ぶ。	共同
	多職種連携実習	主に医療機関に入院、通院している方を対象に、複数の専門職が連携・協働するチーム医療により、医療を効果的、効率的に提供し、対象者や家族のQOLを高めるための活動を体験することで、基礎的実践力を修得する。	共同
	公衆衛生看護学実習Ⅰ (基礎)	「公衆衛生看護学概論」での学びを基盤として、主に保健所と管轄する市町村で行政における保健師活動全般を学ぶ。個人への支援、事業における保健師活動の実際に学ぶとともにコミュニティアセスメントを実践的に学ぶ。	共同
	公衆衛生看護学実習Ⅱ (発展・マネジメン ト)	3年生の公衆衛生看護学実習Ⅰと同地域で実習を実施し、継続的な関わりを学ぶ。問診、相談、家庭訪問、健康教育等に主体的に計画・参加・評価する。またⅠ・Ⅱの学びを通して、コミュニティアセスメントを深める。	共同
	公衆衛生看護学実習Ⅲ (学校・産業)	学校における児童生徒の健康管理の仕組み、方法について学ぶと共に、地域保健における学校や養護教諭の役割と支援方法を学修する。産業場面での労働者の健康課題の実際と支援方法について修得する。さらに、地域保健における職域保健の意味を考察する。	共同
	公衆衛生看護学実習Ⅳ (社会的養護)	児童相談所及び養護施設の実習を通して、児童虐待を予防、早期発見、継続的支援していく制度及び仕組みを理解する。児童虐待に関係する職員の役割と多職種連携・協働の在り方及びその中での保健師の支援方法を修得する。	共同

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

川崎市立看護大学 設置認可等に係る組織の移行表

令和3（2021）年度

学校名	学部・学科	入学定員	編入学定員	収容定員
計		0	-	0

令和4（2022）年度

学校名	学部・学科	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
川崎市立看護大学	看護学部・看護学科	100	-	400	大学新設
計		100	-	400	

令和3（2021）年度

学校名	学部・学科	入学定員	編入学定員	収容定員
川崎市立看護短期大学	看護学科	80	-	240
計		80	-	240

令和4（2022）年度

学校名	学部・学科	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
川崎市立看護短期大学	看護学科	0	-	0	令和4（2022）年4月学生募集停止
計		0	-	0	